

## 和仏法律学校講義録

著者	杉本 貞治郎, 金井 延, 梅 謙次郎, 下村 宏, 富谷 孝太郎, 栗津 孝亮, 赤司 鷹一郎
出版者	和佛法律學校
巻	2-16
ページ	1-43
発行年	1899-09-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/4682">http://hdl.handle.net/10114/4682</a>

# 和佛清學 講義 筆記

每月貳回

第拾六號

目次

商法會社	(自一六頁至六一頁)	法學士杉本貞治郎
經濟學	(自一八〇頁至二〇五頁)	法學博士金井延
表紙及目次	(自九三頁至九六頁)	法學士杉本貞治郎
商法修正要領	(自四四頁至四六頁)	法學博士梅謙次郎
財政學	(自八九頁至九二頁)	法學士下村宏
手形法	(自三二頁至三三頁)	法學博士富谷銑太郎
商法保險	(自七六頁至七九頁)	法學士栗津清亮
商法商行為	(自三七頁至四〇頁)	法學士亦司鷹一郎

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

090  
1899  
2-1-16

## 商法會社

法學士 杉本貞治郎 講述  
校 友 小田幹治郎 編輯

### 第一章 總 則

會社法ノ規定ヲ講スルニ先チ商事會社ノ起リシ沿革ニ付テ其ノ概略ヲ述ヘン  
ト欲ス商事會社ニ幾多ノ種類アルコトハ既ニ諸君ノ了知スル所ナリ而シテ其  
種類ハ今日ヨリ之ヲ見レハ劃然トシテ區別アルカ如シト雖モ退テ其發達ノ沿  
革ヨリ觀察スレハ實ニ模範ノ感ナクンハアラス抑モ商業ノ性質トシテ一種ノ  
技術ヲ要シ又相當ノ資本ヲ要ス然ルニ技術ヲ有スルモノ必スシモ資本ヲ有セ  
ス又資本ヲ有スルモノ必スシモ技術ヲ有セサルヲ以テ此ニ資本家ト企業者ト  
相關結スルノ必要ヲ生シ遂ニ一種ノ組合ヲ組織スルニ至レリ即チ資本主ハ唯

其資本ヲ給シテ自ラ營業ヲ爲スコトナク企業者ハ資本主ノ資本ニ依リテ其營業ヲ爲セリ歐洲中世紀ニ於テ以太利ノ諸市ニ行ハレタル「コンメンダー」如キ是ナリ「コンメンダー」組合員ノ關係ハ恰モ消費寄託ノ如キ關係アリ唯異ナル所ハ資本主ハ利益ノ分配ヲ受クル代ハリニ其出資ノ限度内ニ於テハ損失モ亦之ヲ分擔セリ是レ今日ノ匿名組合「合資會社」等ノ原始ナリト云フ又或場合ニハ數人ノ勞力又ハ資本ヲ集合シテ共同事業ヲ企ツルコトアリ此種ノ團結ニ於テハ其組合員ハ皆其全財産ヲ以テ責任ヲ負ヒ各其組合ノ事務全部ヲ代表スル權限ヲ有スルナリ歐洲中世紀ニ於テ「コンパニヤ」ト稱セラレタル營業組合ノ如キ是ナリ現今ノ合名會社ハ此種ノ組合ノ發達セルモノナルヘシ又「コンメンダー」ニ於テ行ハレタル資本主ノ有限責任ノ思想ハ遂ニ株式會社ノ起因ヲ爲セリ昔時以太利ニ於テ租稅受負會社ナルモノアリ納稅者ニ代リテ政府ニ租稅ヲ納付シ而シテ自ラ納稅者ニ對シテ其租稅ヲ徵收スルヲ以テ業トシ政府ハ之ニ特權ヲ與ヘテ有限責任ノ組織ヲ認許シタリ是レ實ニ今日ニ於ケル株式會社ノ濫觴ナリ

二

新商法ハ合名合資株式ノ外更ニ株式合資ナル組織ヲ認メタリ是レ我舊商法ニ無キ所ニシテ歐洲ニ於テモ近時ニ至リテ發生シタルモノナリ其組織沿革等ニ付テハ後ニ述フル機會アルヘシ  
會社ハ其性質民法上ノ組合ト酷似スルモノアリ現ニ西洋諸國ノ法語ニ於テハ會社ト組合トハ同語ナリ(Gesellschaft)獨リ其語ヲ一ニスルノミナラス獨逸法主義ニ從ヘハ會社中合名會社合資會社ハ法人ニ非ス故ニ其性質モ亦民法上ノ組合ト同シ唯會社ノ目的ハ商業ニ在ルカ爲メニ多少特別ノ規定ヲ要スト云フノミ然ルニ我新商法ニ於テハ會社ハ總テ法人ナリト規定セリ(第四四條是ヲ以テ會社ト組合トハ其性質全ク異ナリ  
會社トハ商業ヲ營ム爲メニ設立シタル團體ナリ是レ商法第四十二條ノ規定スル所ナリ此團體即チ社團ハ法人ナリ(第四四條故ニ會社ノ營業ハ社團法人ノ營業ニシテ社團ヲ組成スル社員(株主)ノ營業ニ非スト云フハ法理ノ正ヲ得タルモノナリ然レトモ此營業法人ヲ設立スル各社員ノ目的ヨリ觀ルトキハ總社員協同シテ商業ヲ營ムニ在リ設立者ノ目的ヨリ觀ルトキハ組合ナリトスルモ法人ナ



リトスルモ更ニ異ナル所ナシ  
 我商法上會社カ組合ト異ナル所ハ實ニ法人ト非法人トノ區別ニ在リ獨逸商法ノ如キハ商事會社ノ法人ナルヤ否ヤヲ明言セスシラ之ヲ學者ノ論議ニ一任セリ而シテ學者ノ大多數ハ商事會社中名會社合資會社ハ法人ニ非スト論スルナリ我舊商法ニ於テハ規定頗ル曖昧ナリシカ故ニ學者ノ解釋亦一定セザリシカ新商法ハ遂ニ之ヲ法人ナリト明言セリ其意ハ蓋シ商事會社ニ於テ社團ニ獨立ノ商號ヲ有スルコトヲ認メ獨立シテ權利ヲ有シ義務ヲ負フコトヲ許シ隨テ訴訟法上獨立ニ訴ヲ起シ又訴ヲ受クル能力ヲ認ムルノ必要アリテ其結果殆ト獨立ノ人格者ト同様ナルヲ以テ之ヲ法人ト斷定シテ無益ノ論爭ヲ鎮止セント欲スルニ在ルナリ彼獨逸學者等カ法文外ニ於テ如何ナル社團ハ法人ニシテ如何ナル社團ハ法人ニ非スト極力論爭スルハ學者ノ研究トシテ趣味アルヘシト雖モ實際ニ於テハ殆ト無用ノ論議ナリ假令之ヲ法人ニ非ストスルモ商事會社ニハ多少ノ財産上ノ獨立ヲ認メサルヘカラス又之ヲ法人ナリトスルモ合名會社合資會社等ニ於テハ其社員カ會社ノ營業上ノ權利義務ニ關シテ一定ノ責任ヲ有ス

ルコトヲ免カレス故ニ之ヲ法人ナリトスルモ法人ニ非ストスルモ各場合ニ關シテ特別ノ規定ヲ設ケサルヘカラス已ニ各場合ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケテ實際ノ不便ヲ救フコトヲ得ルトスレハ必スシモ之ヲ法人ナリ非法人ナリト斷言セサルモ商事會社設立者ノ目的ヲ達スルニ於テ差別ナキナリ彼ブリント氏ノ一派ハ法人ハ擬成人ナリト云フ說ヲ駁シテ法人ノ自然的存在ヲ主張スルモ現在ノ立法上些ノ影響ナキナリ國家カ其意思表示法令ヲ以テ或者ノ人格ヲ奪ヒ又或者ニ人格ヲ與フルコトヲ得ルハ今世ノ公法法理ノ首肯スル所ナレハナリ又ラバンド氏ノ說明ニ依レハ會社ノ義務ニ關シテ社員カ第三者ニ責任ヲ負フモノハ非法人社團ナリト云フモ會社ノ債務ノ爲メニ社員カ保證債務ヲ負ヒシモノト見ルトキハ其社團ノ獨立ノ人格タルヲ妨ケサルナリ然ラハ則チ社員カ第三者ニ對スル責任ノ有無ヲ以テ社團ノ法人ト否トヲ決セントスルハ疑ヲ挾マサルヲ得ス要スルニ新ニ法律ヲ制定スルニ當リテハ會社ヲ法人ナリト規定スルモ法人ニ非スト規定スルモ又全ク此問題ヲ放棄シテ規定セサルモ實際ニ於テハ妨ケナキナリ

會社ハ法人ナリ故ニ其住所ナカルヘカラス民法第二十一條ニ依レハ各人ノ生活ノ本據ヲ以テ住所トス然レトモ法人ハ無形ナルヲ以テ其生活ノ本據ハ何處ナルヤ疑ナキ能ハス故ニ民法第五十條ニ於テ法人ノ住所ハ主タル事務所々在地ニ在リト定メタリ民法法人ノ主タル事務所ハ會社ノ營業所ニ相當ス故ニ會社ノ住所ハ本店ノ所在地ニ在ルコトヲ規定セリ第四四條第二項

會社ノ組織ニ四種アリ合名會社、合資會社、株式會社、株式合資會社はナリ(第四三條株式合資會社ハ新商法ノ創設ニ係ルモノナリ會社ハ此四種類外ノ組織ヲ以テ設立スルコトヲ得サルナリ

會社ノ成立ハ其本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス蓋シ會社ノ法人トシテ成立スルハ登記以前ニ在リ(合名會社、合資會社ニ在リテハ定款ノ作成株式會社ニ在リテハ株式總數ノ引受(第一二三條若クハ創業總會ノ終結第一三九條ニ在リト雖モ之ヲ以テ直ニ第三者ニ對抗セシムルハ第三者ノ不利ナルヲ以テ設立ノ登記ヲ爲シ第三者ニ會社關係ヲ公示スルニ非サレハ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ許ササルナリ

間ニ於ケル經濟現象ヲ言ヒ表ハスニ足ラサル所アルカ如シ社會經濟學ト云ヘハ國家經濟學ト謂フト大差ナキカ如クナレトモ其ノ人ニ與フル感覺ノ上ニ於テ大ニ優レル所アリ故ニ強テ新規ノ語ヲ用ヒントナラハ社會經濟學ト稱スルヲ最モ適當ナリト思惟スレトモ故ラニ新規ノ語ヲ用フルノ必要ナシト信スルカ故ニ從來ノ慣用ニ從フテ單ニ經濟學ト謂フヲ以テ足レリト考フ

曩ニ經濟學ノ定義ヲ以テ人類社會ニ關スル學問ニシテ専ラ其財貨上ノ現象ヲ攻究スルモノナリト爲セリ然レトモ是レ頗ル漠然トシテ其意義ヲ明カニスルニ非常ノ困難ヲ感スルモノタルヲ免カレス近來經濟學ハ實ニ長足ノ進歩ヲ爲シ其範圍内ニ於テ種々ノ分科ヲ生シ來リタレハ此等ノ分科ヲ總テ包含スルニ適當ナル定義ヲ下サント欲セハ勢ヒ漠然タルヲ免カレス故ニ此定義ノ真意ヲ了解セント欲セハ尙ホ進ミテ現今經濟學中ニ包含セラル、各分科ノ何タルヲ知ラサルヘカラス

註 前ニ掲ケタル經濟學ノ定義ハ頗ル漠然トシテ其意味ヲ了解スルニ困難

ヲ感スヘシ然レトモ是レ定ニ止ムヲ得サルナリ蓋シ經濟學ハ近來非常ニ其ノ範圍ヲ擴メ其中ニ種々ノ分科ヲ生スルニ至レリ此等ノ分科ヲ總テ包含スルニ足レル定義ヲ下サント欲セハ勢ヒ漠然タルヲ免カレス凡ソ簡單ナル言詞ノ中ニ數多ノ事柄ヲ包括セシメント欲セハ其包含スル事物ノ多キタケ夫レタケ判明ナラサルニ至ルモノナリ故ニ經濟學ノ定義ニ於テモ止ムヲ得ス漠然タルモノヲ以テ満足シ尙ホ之ヲ明瞭ナラシメント欲セハ進テ經濟學ニハ如何ナルモノ、包含サレ居ルカ即チ經濟學ノ分科ノ如何ナルモノタルヤヲ知ラサルヘカラス前ニ掲ケタル定義ハ經濟學ノ骨ト皮トノミトモ謂フヘキモノナリ故ニ此定義ヲシテ眞ニ活動スルモノタラシメントハ血ト筋肉トヲ附加セサルヘカラスカ如シ是レ今ヨリ進ミテ經濟學ノ分科ヲ論セサルヘカラスル所以ナリ

### 第三編 經濟學ノ分科

經濟學ノ原理原則ヲ分ナテ二種トス其一ハ純粹ノ學理ノ攻究説明ニ關シ事實ヲ有ノ儘ニ記述シ之ヲ原因結果ノ理ニ照シテ誤ルコトナキヲ以テ目的トス他ノ一ハ前者ノ結果ヲ應用シ傍ラ他ノ學問ノ原理原則ヲ斟酌シ以テ社會國家ノ經濟上ニ於ケル目的ヲ達シ其繁榮ヲ謀ルノ手段方法ヲ研究シ説明スルヲ目的ト爲ス故ニ二者ノ區別ハ猶ホ文法上ノ直說法ト命令法トノ區別ノ如シ

註 凡ソ經濟學上ノ原理原則ハ之ヲ大別シテ二種類ト爲ス第一ノ原理原則ハ利害得失ノ關係ヲ離レテ攻究スルモノニシテ一般の純粹タル原理原則ヲ攻究スルヲ以テ目的トス即チ事實ト事實トノ原因結果ヲ研究スルヲ以テ目的トス第二ハ前ノ原理原則ノ結果ヲ應用シテ社會國家ノ經濟上如何ナル手段方法ヲ取ルヲ可ナリト爲スカヲ研究スルモノナリ而シテ斯ク應用的ノ事ヲ研究スルニハ他ノ學問例ヘハ統計學、法律學、政治學、倫理學等ヲ多少參酌セサルヘカラス此二者ノ區別ハ宛モ文法上ノ直說法ト命令法トノ區別ノ如シ直說法トハ事實ヲ有ノ儘ニ寫スモノナリ命令法トハ事實ニ因リテ取ルヘキ方針ヲ指示スルモノナリ

前種ノ原理原則ヲ攻究スルモノヲ稱シテ之ヲ純正經濟學ト曰フ或ハ之ヲ稱シテ純理經濟學ト曰ヒ以テ純正ノ意味ヲ真正又ハ正當ノ意味ニ解釋セラル、コトアルノ虞ヲ避ケント欲スル者アリ是レ洵ニ一理アルコトナレトモ純正ノ熟語ハ既ニ理化ノ學ヲ始メ他ノ諸學科ニ於テ多年使用シ來リテ別ニ不都合ナク一定ノ意味ヲ有スルニ至リ居レハ經濟學ニ於テモ亦此熟語ヲ用フルヲ以テ至當ナリト信ス

註 第一種ノ原理原則ヲ攻究スルモノヲ稱シテ之ヲ純正經濟學ト曰フ然ルニ純正ノ語ヲ使用スルトキハ真正又ハ正當ノ意味ニ解釋サレ其以外ノ經濟學ノ分科ハ正當ノモノニ非サルカ如ク解セラル、ノ虞アルヲ以テ純理經濟學ト曰フヘシト説ク者アリ是レ一理ナキニ非ス然レトモ純正ノ二字ハ他ノ學問ニ於テ既ニ多年用ヒ居リテ別ニ不都合ナシ例ヘハ純正化學應用化學ト謂フ場合ニ於ケルカ如シ故ニ今更改メテ純理化學ト云フニ及ハス經濟學ニ於テモ亦然リ故ニ強ヒテ純理ノ文字ヲ用フルニ及ハス純正經濟學ト云フヲ以テ最モ至當ナリトス

或ハ又純正經濟學ヲ稱シテ經濟學ノ原理ト曰フ者アレトモ是レ當ラス何トナレハ後種ノ原理原則ヲ攻究スル學科モ亦等シク經濟學ノ原理ト名クヘケレハナリ後種ノ原理原則ヲ攻究スルモノハ實ニ之ヲ應用經濟學ト名ク從來英佛米等ノ學者カ經濟學ニ與ヘタル定義ノ多クハ其一分科タル純正經濟學ノ定義トシテハ多少不完全ナル所アルモ左マテ大ナル過失ハ之ナシ唯奈何セン之ヲ近來非常ニ進歩發達セル經濟學ノ全體ニシテ應用的ノ原理原則ヲモ包含スルモノニ適用セント欲スレハ到底其狹隘ニ失スルヲ免カレサルヲ蓋シ彼等多數學者ノ眼中ニハ未タ經濟學全體ノ一分科トシテノ應用經濟學之アラサリシナリ否之アルヲ得サリシナラン

註 或ハ純正ノ文字ヲ避ケテ經濟學ノ原理ト曰フ語ヲ用ヒ之ニ對シテ第二種ノモノニ經濟學ノ應用又ハ經濟學ノ術策ナト曰フ名ヲ付スル者アリ是レ適當ナラス何トナレハ後種ノ分科ト雖モ亦經濟學ノ原理タルニハ相違ナクレハナリ又後種ノ原理原則ヲ攻究スルモノハ之ヲ應用經濟學ト名クヘキモノニシテ近來發達シテ漸ク學問ノ形態ヲ備フルニ至レルモノナリ往時ノ英

國派經濟學者ノ如キハ全ク應用經濟學ヲ經濟學ノ一分科トシテ認メサリキ  
蓋シ當時ニ於テハ未タ之ヲ認ムルコト能ハサリシナラン

然ラハ則チ經濟學ノ現狀ニ於テ純正經濟學ノ職分トシ又ハ職分トスヘキ所ハ  
果シテ何レニ在リヤ是レ先ツ第一ニ攻究スヘキ必要アル問題ナラン予思フニ  
純正經濟學ノ當然職分トシ又ハ職分トスヘキ所ハ人類社會ニ於ケル財貨ノ現  
象ニ付キ其一般普通ニ有スル性質ト其相互ニ依レル關係トヲ觀察シ之ヲ原因  
結果ノ道理ニ照シテ推論シ以テ財貨ニ關スル一般普通ノ原理原則ヲ發見シ又  
ハ概説スルニ在ラント

註 純正經濟學ノ當然職分トスル所ハ人ニ因リテ異ナレトモ總テ經濟社會  
ニ於ケル特別事情ニ關スルモノハ姑ク之ヲ措キ一般普通ノ現象ニ付テ研究  
シ又是カ原因結果ノ關係ヲ明カニシ果シテ彼ノ原因ハ此結果ヲ生スルヤ否  
ヤヲ研究スルモノニシテ特別ノ事情ヨリ特別ノ結果ヲ生スルヤ否ヤハ純正  
經濟學ノ問フ所ニ非サルナリ

他語以テ之ヲ言ヘハ純正經濟學トハ社會國家ヲ組織スル民衆カ一定ノ秩序ニ

從ヒ規則正シキ方法ニ依リテ其欲望ヲ滿タサントシテ經營スル活動ノ總稱タ  
ル社會經濟又ハ國民經濟ニ關スル一般普通ノ原理原則ヲ攻究スルモノナリ

註 是レ第一編第一章ニ於テ欲望ノ事ヲ論スルニ當リ既ニ説明シタルカ故  
ニ復贅セサルヘシ

故ニ純正經濟學ハ物理學純正化學動物學植物學等ト敢テ異ナルコトナシ或種  
類ノ現象ニ關スル一般普通ノ原理原則即チ所謂天則ヲ攻究スルモノナリ隨テ  
其目的トスル所ハ真理ニ在リ利害得失ニ非サルナリ

註 純正經濟學ノ性質ハ理化ノ學動植物學等ト毫モ異ナルコトナシ唯其攻  
究スル目的物タル現象ノ異ナルコトアルノミ物理學ハ物體ノ性質ニ關シテ  
攻究シ純正化學ハ物體ノ元素ニ關シテ攻究ス斯ク攻究ノ目的タル現象ハ各  
異ナルモ攻究ノ目的即チ其理ヲ發見スル上ニ於テ又ハ攻究スル方法ニ於テ  
必スモ異ナルコトナシ唯演繹ノ方法ノミニ據リテ攻究スルコトヲ得ル  
モノ或ハ歸納ノ方法ノミニ據リテ攻究シ得ルモノ又ハ右二種ノ方法ニ兼  
ネ據ラサルヘカラサル等ノ差アリト雖モ其何レカノ方法ニ據ラサルヘカラ

サルニ至リテハ則チ一ナリ經濟學研究ノ方法ニ至リテモ亦此以外ニ出テス唯演繹的ノ研究法ニノミ據ルトキハ議論總テ抽象的ニノミ流レ英國舊派ノ覆轍ニ陷リ歸納的ノ研究法ノミニ據ルトキハ獨逸歷史學派中ノ一部ノ學者ノ如ク極端ニ事實ト沿革トノミヲ臚列スルノ弊ニ陷ルヘシ故ニ經濟學ヲ研究スル者ハ演繹歸納ノ二論法ヲ併セ用ヒサルヘカラス是レ茲ニ話次一言スル所以ナリ

予ハ天則ヲ攻究スルモノナリト云ヘリ此所ニ謂フ天則トハ文字通りノ意味ヲ有スルモノニ非ス蓋シ經濟上ノ現象ハ人爲ノ大ニ關與スル所アルモノナリ即チ經濟現象ナルモノハ人爲ノミヲ以テハ之ヲ左右スルコト能ハスト雖モ或點マテハ人爲ニ因リテ之ヲ左右スルヲ得ルモノナリ故ニ所謂天則トハ人爲ヲ包含スル所ノ天則ナリト知ルヘシ而シテ純正經濟學研究ノ目的ハ眞理ヲ發見スルニ在リテ利害得失ノ如キハ其顧ミル所ニ非サルナリ

之ニ反シテ應用經濟學ハ眞理ノミヲ目的トセス眞理ヲ本トシテ利害得失ノ關係ヲ攻究スルモノナリ應用經濟學ハ純正經濟學ヲ重ナル土臺トシテ人類ノ經

濟上ニ於ケル目的ヲ時ノ事情ニ照合シテ最モ善ク達スヘキ手段方法ヲ吾人ニ指示スルモノナリ應用經濟學ハ實ニ一種ノ技術的學問ナリ

註 應用經濟學ハ固ヨリ眞理ヲ度外視シ若クハ眞理ニ逆フモノニ非スト雖モ純粹ノ眞理ノミヲ攻究スルニ止マラスシテ純正經濟學ノ原理原則ヲ基礎トシテ實際上ノ利害得失ヲ考ヘ以テ人類ノ經濟上ニ於ケル目的ヲ達スヘキ手段方法ヲ攻究スルモノナリ故ニ一種ノ技術的學問ナリト謂フヘシ

人或ハ曰ハク應用經濟學ヲ講スルハ單ニ實際家ノ爲スヘキコトナリ學者ノ爲スヘキコトニ非ス應用經濟學ハ學問ニ非スト然レトモ是レ未タ經濟學現時ノ進歩ヲ知ラサル者ノ言ナリ經濟學ハ理化ノ學ト異ナリ尙ホ頗ル幼稚ナルハ誠ニ疑フヘカラスト雖モ其今日ノ有様豈ニ其一分科タル應用經濟學ヲ以テ一種ノ學問ト看做スニ足ラザランヤ學問トハ單ニ物理學化學等ノ如キ比較的完全ナルモノノミニ限ラサルナリ

註 或ハ曰ハク應用經濟學ハ學問ニ非ス應用經濟學ハ學者ノ攻究スヘキモノニ非ス實際家ノ爲スヘキコトナリト然レトモ是レ現今ノ經濟學ハ如何ニ

發達シ居ルカ如何ニ分科セラレ居ルカヲ知ラサル者ノ言ナリ經濟學ハ理化ノ學問ニ比シテ或ハ幼稚タルヲ免カレザラン然レトモ四五十年來非常ニ發達シ其中ノ分科タル經濟政策學、財政學ノ如キモ亦學問ナリト謂ヒ得サルモノニ非ス元來完全ナル學科ノミ獨リ學問タルニ非ス完全ナルモノノミカ學問ナリト謂フ可キモノナラハ世間始ト學問ナルモノ之ナキニ至ルヘシ然リト雖モ應用經濟學ハ其名稱ノ表明スルカ如ク決シテ純粹ノ眞理ノミヲ研究スルヲ目的トスルモノニ非ス事ヲ主トシテ利害得失ヲ攻究スルヲ目的トスルコト前ニ述フルカ如シ論者其技術的學問タルノ言ヲ聞キ之ヲ以テ寧ロ實際論ニハ非スヤトノ疑ヲ再ヒ起スコトアルヘシト雖モ是レ技術ト實際トノ區別ヲ知ラサルニ坐スルノミ抑モ技術ナルモノハ純粹ノ學問ト同様ニ形而上ノ事ニシテ思想界ノ範圍内ニ在ルモノナリ之ニ反シテ實際トハ形而下ノコトニシテ物質界ノ範圍内ニ在リ技術ヲ研究スルトハ實際ニ施スヘキ手段方法ヲ工夫スルノ謂ナリ實際ニ從事スルトハ現ニ事ヲ執ルノ謂ナリ故ニ技術ト實際トハ密着ノ關係アレトモ其間自ラ判然タル區別アリ技術ハ畢竟實際ト純粹ノ學理

トノ間ニ介立スルモノナリ此種ノ技術ニシテ經濟ニ關スルモノヲ攻究スルモノ是レ即チ技術的ノ學問タル應用經濟學ナリ應用經濟學豈ニ一ノ學問ナラザランヤ

註 應用經濟學ハ技術的學問ナリト云ヘハ或ハ復是レ實際論ナリ眞正ノ學問ト謂フヘキモノニ非サルナルヘシト曰フ者アラシ然レトモ技術ト實際トハ大ナル區別アリ技術ハ形而上ニ在リテ思想界ニ屬シ智能ノ作用ニ依リテ種々様々ニ思慮ヲ運ラスモノナリ實際ニ從事スルトハ思慮ノ結果ヲ現實ニ行フコトナリ例ヘハ茲ニ一幅ノ山水畫ヲ作ラントスルニ當リテ山川ノ位置樹木ノ配列等ノ意匠ヲ凝ラスハ筆ヲ執リテ之ヲ描クト自ラ異ナル所アルモノナリ即チ豫メ意匠ヲ凝ラスハ技術ニシテ之ヲ描クハ實際ニ屬スルモノナリ尤モ熟練シタル畫工ハ自己ノ意匠ニ依リテ直チニ筆ヲ下スコトモアラシ然レトモ思慮ニ屬スルコト、實際畫ヲ描クコト、ハ理論上之ヲ混スヘカラサルナリ他ノ例ヲ以テ云ヘハ或一事業ヲ企ツルニ當リテ之ヲ計畫スル者アリ又其設計ヲ實際ニ行フ者アルカ如シ政治上ニ於テモ軍事上ニ於テモ常ニ此ノ

計畫ト實施トノ區別ヲ見ル又以テ技術ト實際トノ異ナルヲ了解スルニ足ラン  
 縱令應用經濟學ヲ論スルハ未タ以テ學問ト稱スヘキモノニ達シ居ラストスル  
 モ之ヲ論スルハ實際家ノコトナリ學者ノコトニ非スト云フ道理ハ更ニ之ナカ  
 ルヘシ未タ學問ト稱スヘカラサルモノヲ取リテ之ヲ研究スルノ結果終ニ之ヲ  
 シテ一個ノ學問タラシムル是レ豈ニ却テ學者ノ名譽ナラスヤ經濟學ノ祖先  
 アダム・スミス其人ノ如キ畢竟之ヲ爲セタル者ナリ應用經濟學ヲ論スル如何ハ學  
 者ノ職分外ナランヤ

註 今一步ヲ譲リテ應用經濟學ハ今日未タ學問ト云フ名稱ヲ付スルコトヲ  
 得ストスルモ夫レ故ニ彼ハ學者ノ攻究スヘキモノニ非ストノ論決ヲ生スル  
 コトナシ何トナレハ未タ學問ト爲リ居ラサルモノヲ取リテ之ヲ攻究シ遂ニ  
 之ヲ以テ一ノ學問ト爲スニ至ルカ如キハ學者ノ名譽トスヘキコトナレハナ  
 リ是レ他ノ學問ニ於テモ往々見ル所ナリ經濟學ノ父タリ母タリトシテ尊敬  
 セラル、彼ノ「アダム・スミス」ノ如キハ別ニ多クノ新説ヲ唱ヘタルニ非ス又經  
 濟學上驚天動地ノ偉説ヲ立タルニ非ス唯氏以前ニ於テハ經濟現象ノ單ニ部

分のニ論述セラレタルノミニ過キサルヲ氏ハ取捨綜合シテ一ノ系統ヲ立テ  
 其總テヲ秩序ヨク論述シタルヨリ從來學問ニ非サリシモノヲ學問ト爲スニ  
 至リタルモノナリ之ヲ爲シタルハトテ何人モ「アダム・スミス」ヲ以テ學問ニ非  
 サルモノヲ學問ト爲セタル厄介ノ男ナリ學者ニ非スト云フ者ナキノミナラ  
 ス却テ氏ヲ經濟學ノ祖先トシテ賞賛尊敬スルヲ一般ナリトス然ラハ則チ應  
 用經濟學ハ學問ニ非ス故ニ學者ノ研究スヘキモノニアラス研究スルニ及ハ  
 サル所ノナリト云フカ如キハ固ヨリ採ルニ足ラサル説ト謂フヘキナリ  
 應用經濟學ハ其範圍頗ル廣ク之ヲ詳説スルトキハ尙ホ多クノ時間ヲ要ス然  
 ルニ此學期モ最早時間ヲ多ク剩サ、ルヲ以テ遺憾ナカラ之ヲ詳細ニ講スル  
 コトヲ得ス唯左ノ二種ニ大別スルコトヲ示スニ止ムヘシ

一 經濟政策學 社會經濟全般ニ對シテ國家ノ執ルヘキ方針ヲ論スルモ  
 ノナリ此經濟政策學ノ中ニハ農業、工業、商業等ニ關スル特別ノ問題アリ  
 貨幣信用銀行會社度量衡等ニ關スル一般ノ問題アリ其他近來社會問題  
 ヲモ此中ニ包含スルニ至レリ



二 財政學 是レ國家ノ財政ヲ論スルモノナリ然レトモ今日ノ財政學ニ於テハ地方團體ノ財政並ニ同盟國連合國間ニ共通ノ財政ヲモ論スルニ至レルカ如シ

尙ホ一個人ノ私經濟ニ關スルコトモ應用經濟學ニ屬スレトモ今姑ク之ヲ措キテ論セス總テ斯ノ如キ種類ノモノヲ包含シテ之ヲ應用經濟學ト稱スルコトヲ會得スルヲ以テ満足セサルヘカラス而シテ應用經濟學ハ純正經濟學ヲ重ナル基礎トシ他ニ尙ホ倫理學、法律學等ヲ參考セサルヘカラサルモノナリ

# 經濟學(總論)終

(三十二年度講義錄)

法學博士 金井 延講述

## 經濟學講義

和佛法律學校發行

經濟學目次

總論	一
第一章 慾望	一
第二章 財貨	九
第三章 價値	二九
第四章 財産制度	五一
第二編 經濟學ノ定義	七二
第三編 經濟學ノ分科	一〇六

經濟學目次終

ハ連續シテ本人ノ爲メニ或種類ノ商行爲ヲ代理又ハ媒介スルモノナルヲ以テ其本人ノ爲メニ爲シタル行爲ヨリ生シタル債權ノ爲メニハ其債權ニ關係ナキ物ニ關シテモ留置權ヲ與フル必要アルナリ

#### 第四 代理商ノ權限

第三十九條ニ依レハ物品販賣ノ委任ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ數量ノ不足其他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受クル權限ヲ當然有スルモノトセリ是等ハ全ク委任ノ内容ニ依リテ定マルヘキモノナルモ今代理商ニシテ是等通知ヲ有効ニ受クルノ權限ナシトセハ其不便甚シ而シテ實際當事者カ善ク此等ノ點ヲ明約スルコト勿カルヘシ是レ特ニ本條ヲ設ケタル所以ナリ

#### 第五 代理權ノ消滅

代理商ノ代理權ノ消滅原因ハ種々アルモ一切之レヲ民法ニ譲リ只契約解除ニ關シテ一特例ヲ設ケタリ民法第六百五十一條ニ依レハ委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得ルモノトセリ是レ羅馬法以來ノ原則ナリ蓋シ委任關係ノ根據ハ全ク借用ニ存スルモノナレハ一方ニシテ他ノ信任ヲ缺カ

シカ一日モ委任關係ノ存續スヘキ理由ナシ特ニ羅馬法主義ニ從ヘハ委任ハ無報酬ヲ以テ要件トス故ニ受任者ハ委任契約ニ因リテ一モ利得スル所ナキヲ以テ委任者カ何時契約ヲ解除スルモ以テ受任者ヲ害スルコトナク又受任者ハ好意ヲ以テ他人ノ爲メニ勞務ヲ爲スモノナルヲ以テ之ニ契約解除ノ自由ヲ與フルハ條理ニ適フモノト爲セルナリ然ルニ近世ノ法律思想ニ從ヘハ委任ハ必スシモ無報酬ナルコトヲ要セスト雖モ本來當事者間ノ信用ニ基クモノナルヲ以テ我民法ノ如キモ亦何時ニテモ契約ヲ解除スルコトヲ得ルヲ原則トセリ然レトモ此規定ヲ以テ直ニ代理商ニ適用スルトキハ代理商ノ不利甚シ何トナレハ代理商ハ前述ノ如ク營業トシテ其ノ委任行爲ヲ爲スモノナルニ何時ニテモ委任者ニ於テ隨意ニ解除シ得ルモノトセハ代理商ハ其利得ヲ失フコト少カラサルヘケレハナリ又何時ニテモ解除シ得ルノ權ヲ代理商ニ與ヘンカ爲メニ本人ノ不利ヲ被ルコト亦代理商ノ不利ヲ受クルニ異ナラス是レ第四十條第一項ヲ設ケテ契約ニ期限ナキ場合ニハ各當事者ハ二ケ月前ニ豫告ヲ爲シテ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルモノトセシ所以ナリ若シ又當事者ニシテ契約ノ期間ヲ

定メタルトキハ其契約ノ期間ヲ守ルヘキハ勿論ナリ然レトモ若シ當事者ニ於テ止テ得サル事由アルトキハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ(第四〇條第二項)

# 商法總則終

法學士 杉本貞治郎 講述

# 商法總則講義

(三十二年度講義錄)

和佛法律學校發行

商法總則目次

序言	一
本論	一一
第一編 總則	一八
第一章 法例	一八
第二章 商人	二九
第一節 商人トハ何ソヤ	三〇
第二節 商業權能	三四
第三節 商事能力	三七
第四節 登記	三八
第五節 小商人	四〇
第三章 商業登記	四一
第一節 登記ノ手續	四二

第二節 登記ノ効力	四三
第四章 營業營業所商號	四九
第五章 商業帳簿	六〇
第六章 商業使用人	七三
第一節 代理權ナル商業使用人	七四
第一 支配人	七四
第二 手代番頭	八三
第二節 代理權ナキ商業使用人	八五
第七章 代理商	八六

商法總則目次終

會社ニシテ右ノ二人ノ發起ニ係ルヲ以テ吉佐移民株式會社ト稱セント欲スルモノアリトセンニ此吉佐カ人ノ氏ヲ略シタルモノナリトセハ舊商法ニ依レハ株式會社ニハ此ノ如キ名ヲ用フルコトヲ得ス然レトモ時トシテハ此ノ如キ名ヲ用フルヲ便トスルコトアリ即チ其名ニ依リテ多少會社ノ信用ヲ得ルニ必要ナルコトアリ要スルニ西洋ノ如ク數百年來ノ慣習アレハ格別日本ニ於テハ此ノ如キ慣習ナキヲ以テ強テ西洋ニ模擬セントスルトキハ日本人ノ爲メニハ甚タ不便ナルカ故ニ單ニ合名會社合資會社株式會社株式合資會社等ノ文字ヲ附スルコトヲ必要トシテ面シテ此文字アルトキハ他ニ如何ナル文字アルモ毫モ差支ナキコトニ定メタリ而シテ規定ノ所在ニ付テモ舊商法ニハ各種ノ會社ノ部分ニ在リシカ今回ハ之ヲ商號ノ場所ニ一括セリ

第二ニ舊商法ニ於テ甚タ奇怪ナル規定トシテ非難多カリシ其第二十三條ニ於テハ各商人ハ商號ヲ有シ總テ商業上ニ於テ自己ヲ表示スル爲メ之ヲ用ユ若シ一人ニシテ資本ヲ分チ數個ノ營業ヲ爲ストキハ其各營業ニ付キ各別ノ商號ヲ有スルコトヲ要ストアリシカ此條文ヲ一讀スルトキハ商號ヲ有スルハ恰モ命

今の規定ナルカ如キ感アルノミナラス初メ草案ニ於テハ全ク其趣意ヲ以テ之ヲ置キシコト更ニ疑ヲ容レズ是レ誠ニ奇怪ナル規定ナリト雖モ此ノ如キハ外國ニ於テモ其例ナキニアラサルヲ以テ姑ク之ヲ恕スヘシトスルモ若シ一人ニシテ資本ヲ分チ數個ノ營業ヲ爲ス場合ニ於テハ必ス各別ノ商號ヲ有セサルヘカラスト云フニ至リテハ實ニ實際ノ事情ニ適セサルノミナラス實ニ甚タシキ干渉且ツ束縛ナリト謂ハサルヘカラスト例ヘハ同一人カ資本ヲ分チテ銀行業ト吳服業トヲ營ムカ如キ場合ニ於テハ其銀行業ト吳服業トハ同一ノ商號ヲ有スルコトヲ得シテ必ス別個ノ商號ヲ有セサルヘカラスト雖モ此ノ如キハ實際ニ上甚タ不便ナリ何トナレハ信用ヲ有スル商人ニ在リテハ例ヘハ其銀行業ノ信用ヲ移シテ吳服業ニ利用スルコト常ナルニ拘ラス同一ノ商號ヲ用フルコトヲ得ストセハ全ク此利益ヲ受タルコト能ハサレハナリ今日ニ於テハ既ニ其組織ヲ變更セリト雖モ彼ノ三井家ノ如キハ兩營店トシテ信用ヲ有スルト同時ニ吳服店トシテモ亦信用ヲ有スルカ故ニ一方ノ營業ノ信用ハ他ノ營業ノ信用ヲ生シ他ノ營業ノ信用モ亦一方ノ營業ノ信用ヲ増スカ如キ結果ト爲リ三井家ニ取

リテ甚タ利益ナリシト雖モ若シ同一ノ商號ヲ用フルコトヲ得ストセハ全ク此利益ヲ享タルコトヲ得サリヤナラン尤モ此規定ニ依ルモ三井銀行ト三井吳服店トハ其銀行ト云ヒ吳服店ト云フ點ニ於テ同一ノ商號ニアラスト云フコトヲ得ルカ故ニ解釋上敢テ不便ナキカ如シト雖モ單ニ三井ト云フトキハ同一ノ商號ト爲ルカ故ニ之ヲ用フルコトヲ許サス是レ甚タ束縛ニ過キタル規定ナリトシテ今回ハ全ク之ヲ削除セリ

第三ニ商號ヲ利用シテ詐欺ヲ行フカ如キハ勿論許スヘカラストナルカ故ニ例ヘハ會社ニアラスシテ會社ノ如キ商號ヲ用フルコトヲ許サス此點ニ付テハ舊商法中何等ノ規定スル所ナク單ニ商法施行條例第二條ニ於テ「會社ニ非スシテ商業ヲ營ム者ハ其商號ニ會社ノ文字ヲ用ユルコトヲ得ス」トアリシカ所謂「會社ノ文字ヲ用フルコトヲ得ス」ト云フハ「會社ナル文字ヲ用フルコトヲ禁シタルモノニシテ會社ノ意味ヲ有スル文字ヲ用フルコトヲ禁シタルニアラス而シテ其理由トスル所ハ若シ會社ナル文字ヲ用フルコトヲ許ストキハ商法ニ規定セル各種ノ會社ト他ノ會社ニアラサルモノトヲ區別スルコト甚タ困難ニシテ



世人ハ往々之ニ瞞着セラル、コトアルヲ以テ之ヲ禁スト云フニ在リ然レトモ若シ此ノ如キ趣意ヲ以テ會社ノ文字ヲ用フルコトヲ禁スルニ在リトセハ彼ノ商會又ハ社ト云フカ如キ文字ヲ用フルコトヲ禁セサルヘカラス何トナレハ現ニ何々商會又ハ何々社ノ名ヲ以テ商法上合名會社又ハ合資會社トシテ登記セルモノ極メテ多シ例ヘハ村井兄弟商會又ハ日就社ト云フカ如シ隨テ此等ノ商會又ハ社ノ文字ヲ用フルモ等シク他人ヲ欺ク材料タルヲ得ヘシ現ニ我々ノ如キハ何々社又ハ何々商會ト稱スルモノハ勿論二人以上ノ人ヨリ成レル會社ナリト信スルニ拘ラス其實際ノ内情ヲ聞クニ及ヒテ全ク一人ノ營業タルヲ知ルコトアリ是レ殆ト詐欺ト擇フ所ナキモノナリ是ヲ以テ新商法ノ模範ト爲リシ法典殊ニ此部分ノ模範ト爲リシ獨逸商法等ニ於テハ明ニ會社ヲ意味スヘキ文字ヲ加フルコトヲ得ストアリ是レ固ヨリ然ラサルヲ得サル所ナルヲ以テ新商法ニ於テハ會社ニ非シテ商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シト規定シタリ隨テ商會又ハ商社ト云フカ如キ文字モ亦之ヲ用フルコトヲ得サルナリ或ハ曰ク商法

## ントス

不換紙幣ハ積極ニ不換紙幣其モノヲ發行セラル、場合ト在來ノ兌換券ノ兌換ノ停止ヲ爲スト二個ノ場合アリ後者ハ多ク一大銀行カ恐慌ニ遭遇シ又ハ營業上ノ失敗アリシトキ銀行カ信用ヲ恢復シテ融通ヲ爲シ得又ハ恐慌ノ經過スルマテ倒産ノ患ヲ避ケンカ爲メ行ハル、モノニシテ千六百九十五年ニ於ケル英國銀行千八百四十八年ノ佛蘭西銀行ノ如キ皆此主旨ニ因リ支拂停止ヲ爲シタリ前者ハ非常ナル財政困難ニ遭遇セルトキ又戰時等ノ事變ニ際シ豫メ巨額ノ經費ニ應ス可キ爲メ發行セラル、ヲ常ト爲シ其例枚舉ニ追アラス  
不換紙幣ノ發行方法ニハ政府自體カ直チニ其要スル所ノ額ヲ發行スル場合ト金融機關ヲ指定シテ其機關ヨリ政府所要ノ額次ケノ銀行紙幣ヲ納付セシムル場合トノ別アリ即チ後者ノ場合ハ金融機關即チ銀行若クハ銀行組合ヲシテ其營業需要外ニ紙幣ヲ發行スルコトヲ許シ其責任ハ政府自ラ之ヲ負フモノニシテ銀行ハ唯假面ノ債主ニ過キス銀行ノ納付スル紙幣ニ付テハ銀行ハ毫モ資本ヲ要スルコトナク又之ニ對シテ正貨ト交換スルコトヲ要セス而シテ一方ニ其

紙幣ハ強制シテ通用セラル、モノナレハナリ即チ無名ニシテ不定ナル眞ノ債主即チ國民ト政府ノ間ニ媒介保證ノ勞ヲ取ルモノニシテ其納付額ニ對シテ政府ヨリ受タル金ヲ利子ト云フモ其實ハ製造費其他ノ手數ヲ包含セル一種ノ報酬ニレテ債主ノ國民ニ對シ債務ヲ政府カ負フニ於テハ政府自ラ發行スル場合ト異ナルコトナシ此銀行委託發行法ハ英佛ニ於テ專ラ行ハル、方法ナリトス不換紙幣ノ長處ハ政府租稅通常國債ノ方法ニ依ルコト能ハサルカ又能フヘキモ所要ノ急速ナル爲メ豫期ノ時日ニ於テ巨額ノ收入ヲ得ル克ハサルニ際シ唯一ノ手段トシテ認メラル、ニ在リ即チ課稅又ハ募集ノ手數ト經費ヲ要セス隨時所要ノ額ヲ發行スルコトヲ得ルナリ不換紙幣カ此特種ノ効果ヲ奏セシハ普佛戰爭後ニ於ケル財政整理ノ歴史ヲ以テ好實例ト爲ス可シ普佛戰爭ノ大敗ニ因リ人命財産ヲ消耗セシコト固ヨリ算ナク戰後猶巨額ノ償金ヲ支拂ヒ而モ十年ヲ出テスシテ財政ノ整理其全キヲ告ケ能ク今日ノ佛蘭西アルヲ致セシハ實ニ不換紙幣ノ効ニシテ又不換紙幣ニ依ルニ非スシハ又他ニ手段ヲ見出タスコト克ハサリシモノトス

普佛戰爭ノ際ツール「ポルドニー」ニ設置セラレシ假政府ハ財源乏シク信用薄弱ニシテ抵當モ亦確實ナラス故ニ殆ト八分ノ利子ヲ以テ八千萬圓ノ國債ヲ募ルニ苦メリ此際政府ハ佛蘭西銀行ヨリ五億八千八百萬圓ヲ借受ケ戰爭中ハ六分ノ利子トシ戰爭後直チニ三分ニ下ケ遂ニ一分ニ下ケタリ而シテ政府ハ千八百七十一年及ヒ千八百七十二年ニ國債ヲ募集シ其翌年又三億圓ノ國債ヲ募リ此年ヲ以テ全然不換紙幣ヲ銷却シ得ルニ至レリ然レトモ國債ハ其利子六分ナレトモ不換紙幣ノ借入利子ハ九厘一分中印紙稅一厘差引過ニ過キサルヲ以テ不換紙幣ヲ存スレハ國債總額四億四千萬圓乃至八千萬圓ニ付キ年々二千萬圓ノ利子ヲ利ス可キヲ以テ之ヲ保存シタリ而シテ千八百七十三年以後ハ正貨ト紙幣ト價格相平均シテ民心安シシ國民毫モ其害ヲ受タルコトナク千八百七十九年三月ヲ以テ不換紙幣ノ銷却ヲ告グルニ至レリ蓋シ不換紙幣ニシテ此ノ如キ著効ヲ奏セシハ政府始メ銀行及ヒ國民ハ一時ノ便宜手段トシテ直チニ兌換恢復ノ期ニ達ス可シト信シ當時ノ流通高ハ十二億圓ニ上リシモ一方ニ四億圓ノ正貨ハ一時ニ

價金トシテ佛國ヲ去リシヲ以テ不換紙幣其後天壤正貨過多ノ獨逸ヨリ正貨ノ漸次復歸スルニ至リテハ紙幣又漸次銷却セラレテ金紙ノ價額其平均ヲ失ハス而シテ一方ニハ四億萬圓ノ多クハ爲替手形ヲ以テ支拂ハレ其手形ハ輸出超過佛國來游外人ノ所持セル正金手形佛人所有ノ外國債利札等ヲ以テナリ外國爲替ハ常ニ順境ナリシテ以テ佛國ニ支拂額ノ超過ハ外國市場ニ於テ不換紙幣ハ金貨ニ對シテ却テ打歩ヲ生スルニ至レリ此ノ如ク千八百七十年ノ佛國不換紙幣ハ非常ノ場合ニ於ケル非常手段トシテ其奏効ノ原由ハ又種々ノ情況ニ原由セシモノナリト雖モ又一ニ佛人ノ性質銀行ノ慎重政府ノ格勵等ニ由ラスンハ非ス或論者ハ千八百七十年ノ佛國ノ財政ニ付キ反論シテ曰ク當時佛國ニ於テハ經濟上積極ニ擾亂ヲ來シタルコトナシト雖モ其不換紙幣ノ價格ヲ維持シタル所以ノモノハ一時數週間打歩千分ノ二十七ニ下落シタルコトアリ畢竟人爲ヲ以テ通貨ノ額ヲ制限シタルニ因ルモノニシテ獨逸ニ支拂ヒタル價金ノ爲メニ大ニ通貨ノ額ヲ減少シ其拂底ヲ告タルノ際ナリシヲ以

テ紙幣ト正貨トノ間ニ格段ノ差異ヲ見サリシト雖モ既ニ人爲ニ因リテ通貨ヲ制限シ經濟上自然ノ運轉ヲ妨害シタルカ爲メ其發達進歩ヲ害シタルコト夥シク從來歐洲金融界ノ覇ヲ唱ヘシ佛國ハ其權力ヲ英國ニ奪ハルニ至レリト此反論ニ對シテハ又多言ヲ用ヒルコトヲ要セス唯不換紙幣ノ爲メニ普佛戰爭ヲ開キテ大敗ヲ招キシニ非ス戰爭大敗後ノ復舊策トシテ不換紙幣發行ノ手段ニ訴ヘンコトヲ知レハ足レリ況ヤ此際又他ニ良好ナル方策ノ存セサルニ於テヤ

上述スルカ如ク不換紙幣ハ固ヨリ絕對ニ非難ス可キモノニ非サルノミナラス財政上異常ノ場合ニ於テ特種ノ効果ヲ奏スルモノナルニ拘ハラス多數ノ學者カ猶ホ不換紙幣ニ付キ其弊害ヲ擧ケテ之ヲ非難スル所以ノモノハ要スルニ不換紙幣ハ濫發セラル、ヲ常ト爲スニ在リ即チ各國財政ノ沿革ニ徴スルモ不換紙幣ノ發行ハ失敗ニ了ルヲ以テ例ト爲シ不換紙幣其モノヲ以テ直チニ此カ濫發ノ害毒ヲ聯想セシムルニ至レリ蓋シ不換紙幣發行ノ度數及ヒ發行額ノ多キニ過クルコト即チ不換紙幣ノ濫發ハ一ニ其發行ノ容易ナルニ存ス而シテ其濫發

ノ害毒ノ大ナルハ一ニ其屈伸力ヲ有セサルニ存ス即チ利用價值ヲ有スル正貨又ハ常ニ正貨等ノ準備額ニ比例シテ増減スル兌換紙幣ニ在リテハ貨幣ノ價格ノ高下ハ直接間接ニ國際貿易ニ依リテ此力均衡ヲ保持ス可キモ國外ニ流出セサル不換紙幣ハ忽チ國內流通貨幣ノ膨脹ト爲リ價格ノ暴落ヲ告ケ物價ノ暴騰ヲ來タスモノナリ即チ其濫發シ易キ所以ハ利用價值ナキ一ノ紙片タルニ存シ又同時ニ其害毒ノ大ナル可キコトヲ示スモノナリ「ボワイト氏カ」アツシニヤ證券ノ發行ニ付キ物理學上物體ノ高所ヨリ加速度ヲ以テ墜落スル原則ハ等シク不換紙幣増發ノ場合ニ生スル現象ニシテ財政上及ヒ經濟上戰慄ス可キ害毒ノ附隨スルニ拘ハラス世人ハ恰モ醉狂者ノ如ク物價ノ騰貴事業ノ勃興等一時假面ノ現象ニ眩惑シ害毒ノ洽ク浸蝕セラル、ニ及ヒテ始メテ其非ヲ悟ルモノナリト云ヘルハ又此理ヲ形容セルモノナリ

西曆第十八世紀ノ終リ及ヒ第十九世紀ノ初ニアリテハ諸國ノ人民紙幣ノ爲メニ損害ヲ被リシ者少カラス英國ニ於テハ一方ニハ自家ノ存亡ニ關聯シテ政府ノ行動ヲ牽制シ一方ニハ一般金融界ノ狀態ニ通曉セル銀行ノ手ニ由リテ發行セ

ルモ猶ホ不換紙幣ノ下落ハ二割五分二五ニ達シ高下常ナク頗ル經濟界ヲ苦シメタリ然レトモ遂ニ銀行ノ破産ヲ見ルニ至ラサリシハ猶ホ銀行ニ由リテ發行セシメシ效果ニシテ彼ノ北米合衆國佛蘭西奧地利ノ如キニ至リテハ不換紙幣暴落ノ極殆ト其價格ヲ失敗シ破産ノ慘況ヲ見ルニ至レリ

佛國ノ「アツシニヤ」證券ハ利子ヲ附シ期限ヲ附シテ支拂ヲ爲スヘキ質入證書トシテ發行セラレシモノニシテ一年ヲ經スシテ千七百九十年五分ノ利子ハ三分ト爲シ次テ同年中全ク無利子ト爲シタリ千七百九十二年ニハ發行高八億萬圓ヲ超エ毎年國內ニ増加スル貯蓄高及ヒ該證書ヲ償却ス可キ實本金ト其權衡ヲ失スルニ至レリ隨テ期限來ルモ償却セラル、コトナク一種ノ強制紙幣ト爲リ其後連年濫發セラレテ千七百九十三年ニハ流通高八十億圓ニ上リ千七百九十六年二月十九日ニハ千七百八十九年以後ノ發行ニ係ル「アツシニヤ」紙幣ノ高百八十二億餘圓當時ノ流通高百六十億圓ノ巨額ニ達シ二十四「リブル」ノ金貨ハ七千五百「リブル」ノ「アツシニヤ」紙幣ト交換セラル、ニ至レリ是レ「アツシニヤ」紙幣ハ増發スルモ價格ヲ損セサ

ル可シトノ謬見ノ外ニ土地ヲ以テ貨幣ノ補助若クハ代用物ト爲ス紙幣ノ基礎ト爲ス可キコトヲ唱道シ十八世紀ノ初ニ於テ失態ヲ現ハセン「ジョーロ」ノ愚ヲ再演セシモノナリ

千七百九十六年拂下殘リノ官有地ヲ抵當トシ「マングー」テレトリヤル「ト」稱スル土地抵當紙幣九億六千圓ヲ發行シ「アツシニヤ」紙幣ノ三十倍ノ價格ヲ以テ交換スルコト、シ破産ノ失態ヲ自白シテ辛ウシテ「アツシニヤ」濫發ノ害毒ヲ纏繞スルニ至レリ

奧太利ニ於テモ千八百十年ニハ不換紙幣ノ發行高十億圓ヲ超エ千八百十一年ニハ國家屢不幸ニ遭遇シ物價騰貴シ紙幣ノ價格益下落シ日々高低常ナク銀貨百「フローリン」ヲ以テ紙幣千二百「フローリン」ニ交換セシコトアルニ至レリ云々ノ勅諭ト共ニ不換紙幣ノ通用ヲ止メ引換紙幣ナルモノヲ發行シテ五倍ノ價格ヲ以テ交換スルコト、爲セリ此佛國ノ「マングー」テレトリヤル「ト」同一ノ窮策ニ出テシモノナリ其後屢兌換制度ニ復セントセシモ常ニ政治上ノ動搖ニ由リ此ヲ果タスコト克ハサルハ世人ノ知ル所ナリ

此他千八百六十一年以降南北戰爭ニ於ケル北米合衆國ノ「グリーン・バック」千八百六十六年伊奧戰爭後ノ伊太利ノ不換紙幣「クリミヤ」戰爭ニ於ケル露西亞ノ不換紙幣ノ如キ皆其失態ノ歸スル所ハ不換紙幣其モノニ非スシテ此ヲ所理スル方法ノ是非ニ存ス可キコトヲ證スルモノタリ

不換紙幣濫發ノ害毒ヲ便宜ノ爲メ列舉スレハ左ノ如シ是レ獨リ不換紙幣ノミニ限ラス一般ノ公債濫發ニ於テ等シク附帶スヘキ現象ナリトス

#### 第一 社會政治上ノ弊害

い 投機心ヲ挑撥ス

ろ 奢侈ノ風ヲ馴致ス

は 背徳ノ弊ヲ助長ス

に 勞働問題ヲ誘起ス

#### 第二 經濟上ノ弊害

い 紙幣下落シ物價暴騰ス

ろ 正貨ノ流通停止シ正貨ハ海外ニ流出シ又ハ鎔解セラレ若クハ貯藏

セラル

は 事業ノ急激ナル濫興及ヒ其挫折

に 貸借關係ノ紊亂

は 投機事業ノ誘發及ヒ恐慌ノ發生

へ 勞銀ノ實價ヲ減少シ貯蓄ヲ阻害ス

と 濫費ニ伴フ資本増殖ノ抑制

ち 貧富ノ動搖急激ニ失シ分配ノ秩序ヲ亂ス

り 濫發紙幣銷却ノ方法ヲ執ルモ一時市場ノ濫滯ヲ來シ各事業ノ進捗

ヲ破壞ス

### 第三 財政上ノ弊害

い 政府信用ノ基礎ヲ弱メ將來ノ起債力ヲ減殺ス

ろ 政府發行ノ他ノ證券ノ價格ヲ低落ス

は 政府内外ノ行動ニ應スル實力ノ伸張ヲ失フ

に 收入ノ實力ヲ減殺シ經費ヲ増加ス

は 民力ノ疲弊ニ伴ヒ納稅力應募力ヲ弱ム

不換紙幣濫發ノ害毒ハ貨幣需要ノ増加ニ因ルカ若クハ紙幣銷却ノ方法ニ訴フルノ外善後策ナキモ前者ハ事實ニ於テ之ヲ望ムコト難ク後者ハ一時金融ヲ引締ムルニ因リ從來勃興セシ諸種ノ事業中道ニ挫折シテ市場ノ濫滯ヲ來シ下民ハ職ニ離レテ益困敗ヲ重テ上流社會ハ奢侈ニ馴致セルノ餘又非常ノ苦厄ヲ受クスンハ非ス此ノ如ク不換紙幣濫發ノ害毒大ナルモノナルヲ以テ此カ濫發ヲ慎ム可キコト論ナク若シ之ヲ發行セサル可カラサル時期ニ際會セハ宜シク金融市場ノ狀況ヲ觀察シテ正貨ト紙幣ノ間ノ權衡ヲ失ハサランコトヲ力メ一方ニハ又外國貿易ノ順逆ヲ精査シテ外國爲替逆戻順適ニ伴ヒテ紙幣ノ流通高ヲ緊張スル等金紙平分法ト外國爲替平分法トヲ併セ照應シテ内國ニ流通スル正貨ノ額ト紙幣ノ額トノ間ニ平均ヲ保持スルコトヲ要ス英國等ニ於テ銀行ヲシテ紙幣ヲ發行セシメタル爲メ比較の害毒ノ少カリシモ普佛戰後ノ佛蘭西ノ財政ノ偉効ヲ奏セシモ銀行カ金融界ノ狀況ニ通曉セルニ由リ正貨ト紙幣ノ權衡保持ニ適セルコト又其一因ナリトス

我邦維新以後ノ貨幣ノ變遷ニ付テ見ルモ明治元年政府カ本政官札ヲ發行セシ當時ハ人民未タ此ニ馴レザルト政府ノ信用未タ薄弱ナリシトニ因リ流通頗ル困難ヲ極メ或ハ紙幣ヲ以テ納税ス可キコトヲ命シ或ハ紙幣ノ相場ヲ立テ或ハ正金ノ引替エ打歩ヲ取ル者ヲ罰スル等訓告勸誘至ラサル所ナカリシカ當時紙幣ノ價格低落シ流通ノ困難ナリシハ發行額ノ過多ナルニ非スシテ信用ノ薄弱ナルニ基セシヲ以テ信用ノ朝野ヲ通シテ發達スルト共ニ太政官札ハ一般ニ流通シ遂ニ正貨ニ對シ打歩ヲ生スルニ至レリ然レトモ一方ニハ藩札ノ交換歲入ノ補填其他十年ノ役ノ爲メ年々増發ノ必要ヲ生シ明治十一年末ノ新紙幣ノ流通高ハ一億千九百八十萬餘圓ニ上リタリ而シテ政府ハ一方ニハ紙幣増發ニ伴フ輸入ノ超過正貨ノ流出ヲ以テ通貨ノ缺乏金融ノ逼迫ニ因リテ内國生産業ノ不振ナルニ在リトシ政府紙幣整理ノ爲メ設立セラレシ國立銀行ヲシテ公債ヲ抵當トシテ紙幣ノ發行ヲ許シ又從來正貨ト交換ス可キ銀行紙幣ヲ政府紙幣ト交換シ得ルコト、シ不換紙幣銀行ノ制ヲ立テシヨリ國立銀行ハ十年ヨリ十三年マテニ三

千五百萬圓ニ近キ紙幣ヲ發行スルニ至レリ此ニ二千萬圓ノ豫備紙幣ノ流通高ヲ合算スレハ一億七千萬圓ノ紙幣ヲ見ルニ至リシヲ以テ紙幣ノ銀貨相場ハ明治十年ヨリ漸次下落シ十四年四月ニハ一圓七十九錢五厘ニ上リタリ政府既ニ當初ノ謬見ヲ自覺シ十一年以來大ニ紙幣整理ノコトニ注意シ十三年後酒造稅ヲ改正シ地方稅支辨ノ費目ヲ増加シ諸官省ノ經費ヲ節減シ金札引換證書條例ヲ改正シ紙幣ノ銷却ト正貨ノ貯蓄ニ勉メ中央銀行ノ設立國立銀行條例ノ改正ト爲リ遂ニ十八年ニ至リ銀紙ノ價格平分シ紙幣ハ減少セラハ千八百餘萬圓ト爲リ兌換紙幣ノ制度ヲ確定シ國立銀行紙幣モ本年十二月九日ヲ以テ通用期限ヲ滿了スルニ至リタリ即チ我國ニ在リテモ不換紙幣ハ一時五割五分ニ下落セシモ其總額ノ僅少ナリシト直チニ之カ整理ニ從事セシヲ以テ害毒ヲ遏クスルコトナカリシハ我國ノ至幸ト謂フ可シ彼ノ藩札引換其他十年ノ役等ノ爲メ紙幣ノ増發アリシハ不可ナキノミナラス若シ明治九年ノ國立銀行條例ノ改正ナク紙幣整理ノ方針ヲ一貫スレハ十年以後銀紙ニ付キ殆ト差異ヲ見ルコトナクシテ結了セシ

ヤモ知ル可カラス不換紙幣ハ害毒ヲ生シ易シ然モ不換紙幣其モノニ於テハ國家事變ニ際シテ財政上特殊ノ方策タルヲ失ハサルナリ

## 第二款 任意國債

任意國債ハ分テテ愛國國債契約國債及ヒ普通國債ノ三トス

### 甲 愛國國債

愛國國債ハ又勸誘國債トモ稱シ國民ノ愛國心ニ訴ヘ政府ニ利益多キ條件ヲ以テ募集スルモノニシテ強制國債ノ如ク國家命令權ノ作用ニ出ルニ非スシテ唯國民ノ愛情ニ訴ヘテ勸誘スルニ過キス故ニ一部少數ノ人民ノ義捐ニ浴スルコトヲ得可キモ到底政府所要ノ巨額ノ資金ヲ愛國國債ニ依リテ得ンコトハ不能ノ事理ニ屬シ要スルニ愛國國債ナルモノハ國債ノ一分類トシテ見ル可キ價值ナキモノニシテ唯政府ノ勸誘行爲カ附帶スルコト、一般ニ其利子ノ低キコト、内國債ニ限ラル、ヲ常ト爲スラ極度トシ而モ通常ノ國債ニシテ愛國國債ヨリ低利ナルモノアル可ク政府積極ニ勸誘セサルモ戰事費等ノ國債ニハ實質ニ於テ國民ノ愛國心ハ比較的低位ヲ以テ巨額ノ募集ニ應スルコトアリ

要之國民一般愛國ノ情ヲ缺乏セサルコトハ疑ヲ容レサルト同時ニ其愛國ノ情カ又自愛ノ情ニ比シテハ數歩ヲ輸ス可キコト亦明カナリ方今財政ノ發達ト共ニ一國ノ金融市場ヲ擾亂スルコトナク資本ヲ外國ヨリ輸入セテ其臨時ノ需要ヲ充タシ後除々トシテ之カ償却ヲ計ルノ方便ヲ有スルノ際内國市場ヨリ巨額ノ資金ヲ吸收スルハ又策ノ得タルモノト謂フ可カラス愛國々債ノ利益ハ其利子ノ低キニ在リト云ハンカ政府ノ利スル所ハ債權者ノ損失ナリ一國ノ富ニ於テハ其間ニ寸毫ノ軒輊ナキト共ニ爲メニ金融市場ヲ動搖シ人心ニ不快ノ念ヲ抱カシムル損失ニ比スレハ又以テ之ヲ償フニ足ラサルナキヲ保セス況ヤ愛國々債其モノカ古來各國ニ於テ此カ失敗ヲ事實ニ於テ證明スルニ於テフヤ

政府國債ヲ起スノ必要急迫ナルトキハ其ヨリ生ス可キ義務ノ負擔又益重カル可キトキニシテ政府カ國民ノ愛國心ニ訴ヘ低利ノ國債ヲ起サントスルトキハ通例ノ方法ニ依ルトキハ非常ノ高利ヲ支拂ハサルヲ得サルトキナリ佛蘭西ノ千八百三十年千八百四十八年ノ革命ノ際共ニ國家ノ事態頗ル急ニシテ國民ノ愛國心最モ熾ナリシ秋ナリ佛蘭西政府ハ國民ノ愛國心



ニ訴ヘテ此際國民ハ私利ヲ捨テ、政府ヲ助ク可シ政府ヲ助クルハ偶以テ自ラ助クル所以ニシテ公共ノ秩序恢復セラレ凡百ノ事業勃興スヘキ旨ヲ鼓吹セシモ共ニ奏効スルコトナク千八百三十一年ノ際ハ五分利附平價ノ募集ニ對シテ僅ニ二千四十三萬餘法ヲ得ルニ過キサリキ當時國內ノ富有者間ニハ殊ニ政府ノ人望厚キヲ加ヘ一般ノ愛國心又大ニ挑撥セラレタル際ニ拘ハラス猶ホ氏ノ狀況ヲ呈シ千八百四十八年ノ交ニ在リテハ五分利附平價ヲ以テ募集額一億法ニ對シ應募額僅ニ二千六百餘萬法ニ過キス其他伊太利諸國ニ於テ施行セラレシ愛國々債モ亦同一ノ不結果ヲ來セリ

#### 乙 契約國債

契約國債トハ政府カ定期中又ハ無定期ニ支拂又ハ支給ヲ約束スルモノニシテ特定人ニ對スル場合ト不特定人ニ對スル場合トアリ再分シテ支給又ハ支拂約束及ヒ特別借入ノ二ト爲ス

支給又ハ支拂約束ニシテ特定人ニ對スル場合ハ彼ノ私人ニ若干年間若クハ或事故ノ存在又ハ不在中ニ限リ與フル補給金恩給金等ニシテ通常支給約束ト云

ヒ不特定人ニ對スル場合ハ政府發行ノ兌換券クハ不換紙幣ニシテ通常支拂約束ト謂フ後者中不換紙幣ニ屬ス可キモノハ前欸間接強制國債ニ於テ之ヲ詳述セリ兌換紙幣ニ付テハ次欸流動國債中財政上ノ國債ノ處ニ於テ之ヲ述フ可シ前者中恩給其他ノ支給約束ハ同シク次欸流動國債中行政上ノ國債ノ處ニ於テ之ヲ述フ可ク此ニハ主トシテ前者中通常補給金ト稱スルモノヲ一言ス可シ

契約ニ因リ生スル給與金ハ人民ノ負擔上ニ於テハ恰モ政府カ年金ヲ起シテ事業ヲ企圖シ之ニ對シ年賦金ヲ支拂フニ異ナラス其財政上費用ヲ増加スルハ公債ノ増募セルト相異ナルコトナシ蓋シ給與金ヲ與フル多數ノ場合ハ公共ノ利益ヲ目的トスル事業ノ獎勵擴張ヲ期スルトキニシテ築港運河航海鐵道等ノ如ク經濟上軍事上重要ナル關係ヲ持スルモノニ於テ殊ニ然リト爲ス而シテ其補給金ヲ與フル方法ハ大畧分テ次ノ三種ト爲ス

- 一 單純ナル補給金
- 二 起業ノ完成ヲ目的トスル補給金
- 三 利子ノ補給金



間ニ於ケル貸借關係ト其性質相似タリ但場合ニ由リテハ利子ヲ附セサルコトアリ各國通例中央銀行ニ對シテ借入ル、ヲ例ト爲シ其借入ノ方法ニ至リテハ或ハ交互計算ニ依ルアリ爲替ニ依ルアリ擔保ヲ附スルコトハ現時ハ殆ト稀ニシテ唯直接間接ニ銀行ニ特權其他ノ利益ヲ付與スルコト多シ其最モ生シ易ク且弊害大ナルハ其貸出銀行ニ紙幣ノ發行權ヲ許シ又ハ其權限ヲ擴張スルニ在リ蓋シ特別借入ノ高多キニ上ルトキハ銀行ハ勢ヒ之ニ應スルカ爲メ市場ノ通貨ヲ吸收シ物價ノ下落金融ノ逼迫ヲ來スヲ以テ少クトモ其借入當時ニ於テ流通貨幣ノ不足ヲ告クルヲ例トス隨テ巨額ノ借入ハ間接ニ不換紙幣濫發ノ導火ト爲ル可キモノニシテ魯國政府カ信用ノ薄弱ナルヨリ國債ノ募集ヲ爲スコト克ハス盛ニ中央銀行ヨリ借入ヲ爲セシ秋等シク此失敗ヲ招キシ所ナリトス蓋シ借入ノ性質タルヤ毫モ非議ヲ容ル可キモノニ非サルモ其借入ノ條件ノ寬嚴之ニ伴フ間接ノ利害ハ當路者ノ大ニ注意ス可キ點ニシテ彼ノ我政府カ明治十年ノ役ニ第十五銀行ヨリ征討費トシテ一千五百萬圓ヲ借入レシ場合ノ如キ其据置期限ヲ銀行ノ營業期間ト爲セシカ如キ長期間ノ高利ノ支拂ヲ約束セシモノ

形ノ所持人カ訴ヲ以テ振出人ニ對シ償還請求ヲ爲ス場合ニ於テ若シ手形對價ノ支拂ナカリシトキハ振出人ハ之ヲ理由トシテ償還請求ニ應セサルコトヲ得ルカ故ニ所持人ハ此訴訟ニ於テ勝訴者タランニハ對價ノ支拂アリタルコトヲ立證セサルヘカラス而シテ此立證ノ容易ナラサルコトハ多言ヲ待タスシテ知ルヘシ

手形債務ハ契約ニ因リテ生スルモノナリト説明スルトキハ常ニ其生シタル原因ノ存否ニ由リテ手形權利ノ實行ヲ妨ケラル、危險アルヲ免レサルカ故ニ其必然ノ結果トシテ手形ノ流通上大ナル妨害ヲ生セサルヲ得ヌ故ニ又此說ヲ唱フル學者ト雖モ或ハ對價ニ對スル抗辯ハ之ヲ許サスト主張スル者アリ然レトモ前說ノ如ク合意成立說ヲ認ル以上ハ對價給付ノ不履行ヲ以テ抗辯ノ理由ト爲スコトヲ認メサルコトヲ得サルハ必然ノ結果ナリトス  
合意說ハ當時頗ル世ニ行ハレタルニ拘ハラヌ實際上ニ於テハ手形權ノ行使ハ常ニ手形ニ依リテノミ之ヲ爲シタル有様ナリシカ故カ十八世紀ノ終リニ於テハ振出人及ヒ受取人間ノ合意ハ手形債務ノ條件タルニ過キス手形債務ハ書面ヲ以

テスルニ非サレハ成立セストノ說世ニ行ハル、ニ至レリ此說ニ據レハ手形債務ハ書面契約ニ因リテ生シ振出人ト受取人トノ間ニ於テ手形ノ金額振出人ニ支拂フヘキ對價及ヒ手形金額支拂ノ時期ニ付テ合意アルモ若シ手形面ニ之ヲ記載セサレハ手形上ノ法律關係ハ成立セサルナリ故ニ振出人及ヒ受取人間ノ合意ハ手形債務ヲ成立セシムル前約ナリト謂フヘシ其前約ハ手形債務ヲ發生スルモノニ非スレテ手形債務ハ振出人カ手形ヲ作成シ之ヲ受取人ニ交付スルニ因リテ成立スルモノナリト是レ書面契約說ノ要領ナリ手形債務ハ合意ニ因リテ直チニ成立スト云フ前說ニ比スレハ頗ル便宜且進歩シタルモト謂フヘシ此說ニ據レハ振出人ハ手形上ノ義務ヲ有スルヤ否手形ヲ振出スニ付テ其對價ヲ受取リタリヤ否ノ點ノ如キハ之ヲ問フヲ要セス唯振出人ヘ果シテ其手形ヲ任意ニ作成シタルヤ否ヤヲ定ムルコトヲ要スルノミ若シ振出人カ任意ニ手形ヲ作成シ之ヲ受取人ニ交付シタルトキハ其手形ヲ作成スルニ付キ受取ルヘキ對價ヲ受取ラスト雖モ手形上債務ヲ負擔スル者ト謂ハサルヘカラス換言セハ手形債務ハ對價ヲ原因トシテ生スルモノニ非スシテ法律ノ方式ニ從ヒ手

形ヲ作成シタルニ因リテ生スルモノナリ故ニ對價ヲ受取リタルヤ否ノ問題カ重要ナル關係ヲ有スルコトハ振出人ト受取人間ニ限リ其他ノ者ニ及ハサルナリ振出人ハ受取人以外ノ手形所持人ニ對シテ對價不履行ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ手形債務ハ要式行為タルヨリ生スル自然ノ結果ニ外ナラス手形作成ノ原因モ亦手形債務ノ成立ニ關係セサルヲ以テ或ハ貸借上ノ債務履行ノ爲メナルト或ハ交換ノ爲メナルト或ハ又賣買履行ノ爲メナルトヲ問フコトヲ要セサルナリ蓋シ書面契約說ハ手形ノ實際上并ニ學問上ニ於ケル一大進歩ナルノミナラス近世手形上ノ學說ニ關スル階梯ヲ成スモノト謂フヘキナリ以上述フル如ク手形債務手形ニ依ル當事者間ノ意思ノ合致ニ因リテ成立スルモノナリトノ說ハ十九世紀ノ初ニ至ルマテ始ト何人モ敢テ疑ヲ容レサル所ナリキ然ルニ此說ニ反對ノ意見ヲ公ニシ之ヲ立法例ニ實行セントシタル前回ニ示シタル索遜王國ノカール・アイナルト氏ナリ氏ハ紙幣又ハ銀行兌換券ノ流通スル實況ヲ觀察シ其理ヲ推シテ手形ニ應用セントノ希望ヲ抱キ十九世紀ニ要スル手形法ナル論文ニ依リテ其思想ヲ發表セリ其要領左ノ如シ

凡ソ商人カ信用ヲ有スルトキハ恰モ國家カ紙幣ヲ發行シ銀行カ兌換證券ヲ發行スルカ如ク私ニ作リタル紙幣ヲ發行シテ之ヲ流通セシムルコトヲ得ヘシ其紙幣カ一定ノ時期ニ於テ相違ナク硬貨ト交換セラル、ニ於テハ之ヲ受取ル者ハ紙幣又ハ銀行ノ兌換券ヲ受取タル場合ト同シタ容易ニ之ヲ流通セシムルコトヲ得ヘシ商人ノ發行スル手形ハ即チ商人ノ紙幣ナリト謂フヘシ抑モ手形ノ振出人カ自ラ支拂フコトヲ約スル約束手形ト他人ヲシテ支拂ハシムルコトヲ約スル爲替手形トヲ問ハス商人間ニ於テ其振出タル手形ヲ見ルコトハ恰モ現金ノ如シ例ヘハ物品ヲ賣渡シタル場合ニ賣渡人ハ其代價トシテ手形ヲ受取ルコトヲ拒マヌ未タ手形ヲ現金ニ替ヘサル前ト雖モ代價ハ恰モ支拂ハレタルモノ、如ク看做サル、ハ商人間ニ於ケル一般ノ慣習ナリ蓋シ此慣習ハ手形面ニ記載シタル金額カ一定ノ時期、一定ノ場所ニ於テ異議ナク支拂ハルヘシトノ信用ヲ換テノミ實際ニ行ハルヘキモノニシテ若シ其信用ニ缺タル所アルトキハ手形ハ其効用ヲ爲スコト能ハス而シテ此信用ニハ手形債權者トシテ手形ヲ所持スル者ノ權利ハ其以前ノ所持人ト手形債務

者トノ關係ニ因リテ妨ケラル、コトナシトノ規定ヲ要ス換言スレハ商人間ニ於テ手形ヲ授受スルコトハ恰モ紙幣又ハ兌換券ヲ取扱フ如ク之ヲ交換シテ毫モ疑ヲ生セサシムルニハ手形ノ各所持人ハ獨立ナル債權ヲ有スルモノニシテ其前者ノ債權ヲ承繼スルモノニ非スト云フ規定ヲ要ス然リ而シテ此趣旨ハ近世ノ手形法ノ認ル所ニシテ契約ニ因リテ手形債務ヲ生スルモノナリトノ説ト相容レサルナリ換言スレハ近世手形法ニ於テハ手形債務ハ一方行爲ナルコトヲ認ムルモノナリ手形ノ振出人ハ唯其直接受取人ニ對シテノミ手形金額ヲ支拂又ハ支拂ハシムヘシトノ意思表示ヲ爲スモノニ非スシテ廣ク公衆ニ對シテ意思表示ヲ爲スモノト謂ハサルヘカラス若シ之ニ反シテ手形債務ハ合意ニ因リテ生スルモノナリトノ説ニ從フトキハ第一裏書讓受人及ヒ其後ノ所持人カ獨立シテ手形上ノ債權ヲ實行シ得ル所以ヲ説明スルコト能ハサルヘシ何トナレハ手形債務ハ契約ニ因リテ生スルモノトセハ手形ノ移轉アル場合ニ各所持人ハ其前所持人ノ債權ノ分量ヨリ大ナル權利ヲ有スルノ理ナキカ故ニ其所持人ノ債權ハ其前所持人ト振出人若クハ其他ノ

支拂人トノ關係ニ因リテ影響ヲ受クルモノト謂ハサルヲ得サレハナリ是ヲ以テ近世手形法ハ前述ノ如ク手形所持人ノ權利ハ其前者ニ對スル手形債務者ノ抗辯方法ニ由リテ妨ケラル、コト無キヲ認ムルニ至レリ云々

蓋シ「アイネルト」氏ノ思想ハ近世手形法理ニ一大革新ノ動機ヲ與ヘタルコト論ヲ埃タサレトモ氏ノ説モ亦未タ完全ナルモノト稱スルコト能ハス

第一 紙幣ハ其本質ニ於テ交換ノ媒介タルモノナレトモ手形ハ其實債權ヲ證明スルモノナリ加之手形ハ定マリタル人ノ用ニ供スル爲メ作成スルモノナルヲ以テ銀行兌換券ノ如ク同時ニ數多ノ發行ヲ爲スコトナシ然ルニ彼此同一ノモノトシテ論スルハ允當ナラス

第二 若シ手形ヲシテ紙幣ノ如クナラシメンニハ悉ク無記名式ノモトヒサルヘカラス

第三 若シ手形ヲ紙幣ト同一ナリトセハ主タル債務者ハ紙幣ニ於ケル發行、者ノ如ク常ニ手形ノ振出人ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ爲替手形ニ於テハ主タル債務者ハ引受ヲ爲シタル支拂人ナリ

此ノ如ク「アイネルト」氏ノ説ハ其基礎ニ於テ誤謬アルカ故ニ一般ニ之ヲ承認セラル、コトナシト雖モ氏ノ説ハ近世手形法理ノ進歩ヲ爲サシメタルコト著シキモノナリ殊ニ手形ノ流通證書タル効用ヲ完ウスル上ニ於テ至大ノ勢力ヲ有シタルコト疑ヲ容レサルナリ即チ手形所持人ハ單ニ權利ヲ有スルノミニシテ義務ヲ負フコトナシト云フ法理ノ如キ手形アレハ即チ手形債務アリ而シテ其原因ヲ問フニ及ハストノ説明、手形債務ハ手形ノ各所持人ニ對シテ約スルモノナリトノ説明、各所持人ノ手形債權ハ獨立ナリ前所持人ノ權利ヲ承繼スルモノニ非ストノ説明、又ハ手形ノ能力若クハ偽造變造ノ抗辯ニ制限アルコトノ説明ノ如キ何レモ氏ノ説ニ依リテ明白ナルヘキヲ以テナリ

「アイネルト」氏カ一タヒ手形ノ單獨行為説ヲ唱ヘテ手形法理上一大革新思想ヲ喚起シタルコト勿論ナルモ從來ノ契約説ハ之カ爲メニ其述ヲ絶チタルニ非ス反テ益巧妙ナル論法ヲ以テ單獨行為説ニ對抗シ現今ニ至リテモ此兩說互ニ鏖ヲ削リテ雌雄ヲ決セントスルモノ、如シ以下兩學說ノ大要ヲ示サントス

# 手形法

於テハ勿論其他ノ所持人ト振出人トノ間ニ於テモ亦意思ノ一致アルニ因リテ成立スルモノナリ然レトモ其成立ニハ一定ノ方式ヲ必要トス即チ振出人ハ法律ノ規定ニ從ヒテ手形ヲ作成シ其意思ヲ以テ受取人ニ之ヲ交付スルニ因リテ成立スルモノナリ故ニ手形ノ作成ト其交付トハ手形債務ノ成立ニ必要ナレトモ交付ニハ別ニ方式ヲ要セス作成シタル手形カ第三者ノ手ニ在リタルトキハ其ノ交付アリタルモノト看做スト云フニ在リ

蓋シ契約説ヲ維持スルニ最モ困難ナル點ハ振出人ト受取人トノ關係ヲ説明スル點ニ非スシテ受取人以後ノ所持人ト振出人トノ關係即チ直接ノ關係ヲ有セサル者ノ間ニ於テモ尙ホ手形債務ヲ成立スル理由如何ノ點ニ在リ換言スレハ第一以後ノ被裏書人ト振出人トノ間ニ於テ如何ニシテ意思ノ一致アリヤヲ説明スルコト至難ナルニ在リ此點ニ付キ學者ノ説明スル所區々ナルモ大要ヲ述フレハ左ノ如シ

甲説 手形債務ノ契約ハ振出人ト受取人トノ間ニ成立シ振出人ト受取人以外ノ所持人トノ間ニ於テハ受取人ハ手形ニ記載シタル總テノ意思ヲ裏書讓受

人即チ所持人タルヘキ者ニ紹介シ裏書讓受人カ其手形ヲ受取ルニ因リテ契約ハ成立スルモノナリ即チ手形ノ受取人ハ裏書ヲ爲スニ當リテ自己ヲ債務者タル地位ニ立タシムル振出人モ亦其債務者タルコトヲ紹介シ其間ノ契約ヲ成立セシムト云フニ在リ

乙説 第一受取人ト振出人トノ間ニ於ケル手形契約ハ手形ノ授受ニ因リテ成立スルコト勿論ナルモ其受取人ハ唯自己ノ爲メノミニ債權者タルコトヲ承諾シタルニ非ス其以後ノ所持人タルヘキ者ノ爲メニモ亦同一ノ承諾ヲ爲シタルモノナリト説明セリ

丙説 第一受取人ト振出人トノ間ニ手形契約カ成立スルト同時ニ之ニ附帶シテ慣習上承諾ヲ要セサル振出人ノ一方義務カ其後ノ未定債權者ノ爲メニ成立スルモノナリ而シテ所謂附帶ノ行爲ハ受取人ノ仲介ニ依リ振出人ニ對スル權利者タラシムルモノナリト説明セリ

丁説 手形ノ振出人ハ單ニ第一受取人ニ對シテ契約ノ申込ヲ爲スノミニ非スシテ數箇ノ申込ヲ未定ノ所持人ニ對シテ同時ニ爲スモノナリ換言セハ手形債

務ノ申込ハ受取人及ヒ其後者ニ對シテ之ヲ爲スモノナルカ故ニ所持人ハ手形ヲ受取ルニ因リテ手形ノ權利者タルコトヲ承諾スルモノナリ隨テ振出人ハ管ニ受取人ト直接ノ契約ヲ爲スノミナラス其後ノ受取人ニ對シテモ最初振出ノ際同時ニ申込ヲ爲シ之ニ因リ契約ハ成立スルモノト謂ハサルヘカラスト  
 戊說 手形ノ振出ニハ手形ニ附着シタル申込アリ債權者タラントスル者ノ承諾ニ對スルモノナルカ故ニ手形ヲ取得シタル者ハ振出人ト直接ニ手形ノ授受ヲ爲シタルト否トニ拘ハラス振出人ト契約ヲ成立セシメタルモノナリト  
 以上ハ契約說ノ大略ナリ其詳細ノ評論ヲ試ムルコトハ攻學上極メテ有益ナルモ時間ニ制限アルヲ以テ各說ノ要領ヲ示スヲ以テ満足セサルヲ得ス  
 右契約說ニ反對スル學說ハ前ニ述ヘタル如ク一方行爲說即チ單獨行爲說ナリ此手形債務ノ成立ニハ手形ノ振出人ト其債權者トノ間ニ於ケル契約即チ意思ノ合致ヲ必要トセス其債權債務ハ手形形式ノ成立スルト同時ニ成立スヘシ但其効力ノ發生ハ手形カ債務者ニ非ル者ノ占有ニ移リタルトキニ在ルコト勿論ナリ蓋シ手形ノ成立ニ付テハ其前ニ於テ之ヲ作成セシムル契約ノ存スル場合尠

カラスト雖モ其契約ナルモノハ手形債務ヲ發生セシムルニ非スシテ其債務ヲ成立セシムル前約タルニ過キスト云フニ在リ然リ而シテ單獨行爲說ヲ採ル者ノ間ニ於テモ手形ハ一方行爲ニ因リテ成立スト云フ點ハ一致スル所ナリト雖モ手形ノ効力ハ手形作成ノ時ニ生スルモノナルヤ將タ其作成シタル手形ヲ交付スルニ因ルヤノ點ニ至リテハ其說ヲ一定セス

甲說 手形ハ一定ノ人ニ交付スル爲メニ之ヲ作成セハ之ニ由リテ手形債權ハ發生スルモノナリト云フニ在リ

乙說 手形ハ記載ノミニテ既ニ手形トシテ存立スルモノナレトモ他人カ之ヲ取得セサル間ハ手形上ノ請求權ハ未タ發生セス手形上ノ請求權ノ發生スルニハ他人カ之ヲ取得スルヲ必要トス故ニ一タヒ記載シタル手形ト雖モ其手形ニシテ他人ニ移ラサル前ニ於テハ作成人ハ隨意ニ其手形ヲ毀滅シ又ハ其内容ヲ變更スルヲ得ルモノナリ換言セハ手形債務ノ生スルニハ其方法如何ニ拘ハラズ手形カ第三者ノ手ニ入ルコトヲ要ス例ヘハ振出人カ之ヲ發行シテ第三者ニ移シタルト之ヲ遺失シタル場合タルト又ハ保存シタルモノヲ竊取セシレタル



場合トヲ問ハス現ニ第三者ノ手ニ移リタル以上ハ手形債權ハ完全ニ實行セラルヘキモノナリ

丙説 手形ノ債權ハ振出人カ手形ヲ作成シタルノミニテハ未タ發生スルモノニ非ス其債權ノ生スルニハ振出人カ之ヲ作成シ交付スルノ意思ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ要ス故ニ其發行前ニ於テハ其効力ナシ例ヘハ盜難紛失等ニ因リテ振出人ノ手ヲ離レタル手形ハ効力ナキカ如シ

蓋シ單獨行為説ノ辯護ニ困難ナルハ左ノ點ニ在ルモノノ如シ

第一 單獨行為説ハ沿革上ノ理由ニ缺ク所アリ 前ニ手形沿革ニ述フルニ當リ説明シタル手形債務ハ契約ニ因リテ成立スルモノナリトノ説ハ數百年間行ハレタルノミナラス現今尙ホ之ヲ主張スル者尠カラズ單獨行為説ハ久シク何人モ爭ハナリシ學説ニ反對スル説ナルカ故ニ極メテ容レラレ難キ觀アリ

第二 單獨行為説ハ實際上手形債務カ發生スル事情ニ反スルノ傾キアリ 手形債務ノ成立スル事情ヲ觀察スルニ手形振出人カ手形ヲ振出す場合ニ於テハ振出人ハ受取人ト相談上ニテ手形ノ金額支拂ノ期日支拂ノ場所及ヒ支拂人ヲ

#### 第四款 保險期間

保險契約ニ於ケル當事者ノ一方カ損害ヲ受ケテ之ヲ他ノ一方ニ填補セシメ得ル期間ハ契約ノ初ヨリ豫定セラレテ存在セサルヘカラス保險者ハ唯漠然ト損害填補ノ責ニ任スルニ非スシテ一定ノ期間ヲ定メテ其間ニ限リ責任ヲ帶フルナリ之ヲ保險期間ト稱ス前款ニ掲ケタル「ロスト、オア、ナットロスト」約款ニ從ヘル場合ヲ除クノ外保險者ハ保險期間外ノ損害ヲ填補スルノ責任ナキモノトス

保險期間ハ當事者ノ合意ニ依テ定ムル所ノモノニシテ長短隨意ナリ生命保險ニ於テハ終身保險ト云フカ如キ不定ナル期間アレハ又二十年三十年ト云フカ如キ一定ノ長期間モアリ又一年ト云フカ如キ短キ期間モアリ海上保險ニ於テハ定時契約ト稱シテ何月何日より何月何日マテト云フカ如キ時間ヲ以テ定メタル期間アレハ又航路契約ト稱シテ或一定ノ航路ヲ出發シテ到着スルマテノ間ヲ契約スルコトモアリ又火災保險ニ於テハ通常一ケ年長キハ二三ケ年短キハ日歩保險ト稱シテ一日若クハ數時間ノ期間ヲ定ムルコトモアリ何レニセヨ

皆契約ノ當時ニ之ヲ確定セサルヘカラス保險期間ノ約セラレサル契約ハ無効タリ

但保險ノ種類ニ由リテ法定ノ期間ノ設定セラレタルモノアリ契約ニ別段ノ反對無ケレハ之ニ從ヘルモノト推定ス例ヘハ運送保險ニ於テハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテヲ以テ保險契約トシ商第四二三條海上保險ニ於テ一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ニ着手シタル時ヨリ陸揚ノ終リタル時マテヲ保險期間トシ積荷ノ保險ニ付テハ積荷カ陸地ヲ離レタル時ヨリ陸揚ノ終リタル時マテヲ期間ト爲スカ如シ(商第六五九條第六六〇條)

又法律ニ於テ之ヲ規定セストモ習慣上又ハ明白ナル道理上期間ノ推定セラレハ場合アリ例ヘハ作物ノ收穫ヲ保險シタル場合ノ如キハ別ニ契約ヲ以テ定メストモ刈入ヲ終リタル時又ハ終ルヘキ時ヲ以テ期間ノ終了ト見ルコトヲ得ルカ如シ海上保險ノ定時契約カ一年以上ニ亘ルヘカラサルカ如キハ習慣ニ由リテ定マレル期間ノ制限ナリ

保險期間ハ契約成立ノ瞬間ヨリ將來ニ於ケルモノナラサルヘカラスト雖モ保險期間ハ必シモ契約成立ノ時ヨリ始マルモノト謂フヘカラス商法第四百七條第四百八條等ニ於テ保險者ノ委任カ始マル云々ト規定セルハ保險契約ヲ締結スト雖モ未タ保險者ノ責任即チ保險期間ノ開始セラレサル場合アルコトヲ想像シタルナリ海上保險ニ於テ其例最モ多クレトモ生命保險ニ於テモ時々吾人ノ見ル所ノモノニシテ例ヘハ契約後五年以後ニ於ケル死亡ヲ保險スルト云フカ如キ又ハ外國渡航者ヲ保險シテ而モ船カ着港シタル後ニ於ケル死亡ヲ賠償スルト約スルカ如キハ即チ是ナリ但法律ノ推定若クハ明約ノ存在セサル場合ニ於テ保險期間ノ始期カ締約セラレサリシトキハ契約成立ノ瞬間ヲ以テ期間ノ開始スルトキト推定スヘキハ勿論ニシテ箇ハ別ニ其理由ヲ説明スルマテモ無ク保險契約ヲ締結スル目的ト當事者ノ意思ニ於テ直チニ責任ノ開始セラレヘキコトヲ想像セ得レハナリ

期間カ日ニ依リテ定メラレタル場合ニ於ケル正確ナル始期ト終期ハ如何ニ定ムヘキヤハ一ノ問題ナリ例ヘハ一月一日ヨリ一年間ト云ヘハ一月一日午前零時

ヨリ十二月三十一日午後十二時ニ至マテヲ指スコト通常ナルカ如シト雖モ一月一日ヨリ前ニ契約ヲ締結セスシテ一月一日中ニ契約ヲ締結シタル場合ハ如何ニスヘキヤ此場合ニ於ケル始期ハ一月一日午前零時ヨリ以後ニ在ルカ故ニ滿一ヶ年後ハ十二月三十一日午後十二時以後ニシテ翌年一月一日何時何分ナラサルヘカラス然レトモ保險契約締結ニ際シテ其時間マテ記載スルコトハ煩ニ堪ヘスシテ且通常實行セサル所ノモノナルカ故ニ一月一日ヨリ一ヶ年ト云ヘハ十二月三十一日午後十二時ヲ以テ終期トスヘシト説ク者アリ或ハ又契約締結ノ日ヲ除キテ翌日零時ヨリ滿一ヶ年ヲ數フヘシト主張スル者アリ皆各多少ノ道理ト習慣又ハ判例上ノ根據アリト雖モ概シテ未定ノ問題ナルカ故ニ保險者ニ於テ通常其契約ノ條款中ニ之ヲ規定シ例ヘハ契約締結ノ時ヨリ滿期日ノ午後四時マテヲ保險期間ト定ムルカ如キ最多ク見聞スル所ナリ此場合ニ於テ被保險者ハ契約締結日ノ零時ヨリ締結時ニ至ル時間ト滿期日ノ午後四時ヨリ同日午後十二時ニ至ル時間トヲ失フモノニシテ殆ト一日ノ損ヲ受クルモノト知ルヘシ

前述ノ定時契約及ヒ航路契約ノ外ニ混合契約ト稱スル保險期間設定ノ方法アリ即チ航路ト期間ヲ二ツナカラ條件トスルモノニシテ例ヘハ横濱ヨリ桑港ニ至ル間三週間ノ危險ヲ負擔スルト云フカ如シ而シテ通常船舶カ三週間ニテ横濱ヨリ桑港ニ到着スル場合ニハ別段疑義ノ發生スルコト無ケレトモ航海ノ滿了ト期間ノ經過トカ相一致セサル場合ニ保險者ノ責任ハ何時ヲ以テ盡クルヤノ問題ニ就テ異議ヲ抱クモノ無キニ非ス前述ノ如キ所謂混合契約カ締結セラレタル場合ニ船舶カ事故ノ爲メ三週間ニシテ尙ホ未タ桑港ニ到着セサル時ニ方リテハ該期間ノ滿了ト共ニ保險者ノ責任カ消滅スルモノナルヤ將タ航路ニ付テモ締約セラレタル理由ニ據リテ桑港ニ到着スルマデハ其義務ヲ免ル、能ハサルヤ或人ハ後者ナリトシ或人ハ前者ナリトシ事々シク論争セリト雖モ是レ皆混合契約ノ旨趣ト實際ヲ知ラサルニ因セリ混合契約ノ旨趣ハ保險者ノ責任ヲ負フ時間ニ付テハ契約ノ期間(即チ三週間)ヲ定メ其負フ所ノ危險ニ付テハ航路(即チ横濱ヨリ桑港ニ至ル間)ヲ定メタルモノニシテ其名ハ混合ト稱スト雖モ事實ハ一種ノ定時契約ニ外ナラス唯普通ノ定時契約ニ於テハ三週間ト云ヘハ横

濱桑港間タルト横濱孟買間タルト他ノ何レナルトヲ問ハサルカ故ニ特ニ一定ノ航路ヲ指定シタルノミ歐洲ノ實際ニ於テ混合契約ハ皆此ノ如ク解釋セラレ且取扱ハレ居レリ之ヲ知ラハ敢テ事々シク論争スルノ要ナキナリ  
 保險期間ノ中斷ト云フコトアリ契約セラレタル一定ノ期間中或危險ノ發生シテ之カ繼續スル間ハ保險者カ賠償ノ責任ヲ免ル、ト約スル場合ノ如キ或ハ船舶カ契約ノ航路以外ニ寄航シタル場合ニ其特別航路中ニ於ケル危險ヲ負擔セサルカ如キ即チ是ナリ又之ヲ危險ノ中止トモ謂フ而シテ之ニ二個ノ場合アリ一ハ危險不可分ノ理ニ基キ中止期間中ノ保險料ヲ返還セサルモノトシ一ハ豫メ定メタル約款ニ依リ之ヲ被保險者ニ拂戻ス所ノモノトス  
 保險期間即チ保險者カ填補責任ヲ負フ間ト保險契約ノ期間トハ自ラ別物ナルコトハ曩ニ述ヘタル如クナルカ故ニ諸君カ此保險期間ト保險契約期間トノ區別ヲ記憶セラレンコトヲ望ム獨逸ニ於テモ頗ル曖昧ナル言語ナカラ此區別ニ對スル二種ノ言語ヲ用ヒ前者ヲ *Versicherungsperiode* ト謂ヒ後者ヲ *Versicherungssatz* ト謂フ之ヲ以テ見ルモ一レンベルヒ氏始メ我商法カ保險契約ノ定義ヲ揭ク

ルニ際シ保險期間ヲ其要素トセサリシコトノ不當ナルヲ覺メ得ヘキナリ

#### 第四節 保險契約ノ關係者

保險契約ノ關係者ハ第一保險者第二被保險者第三保險契約者第四保險金受取人第五彼等ノ代理者トス

##### 第一款 保險者

保險者ハ保險契約ニ於テ損害填補ノ責ニ任スル當事者ニシテ昔ハ一個人ナルト會社若クハ組合ノ如キ團體ナルトヲ問ハス特ニ中世寺院法ノ制限ニ由リテ利子ヲ徵シテ貸金ヲ爲スヲ禁セラレシ時代ニ富豪カ貸金業ヲ能メテ海上保險業ヲ營ム者多カリシ以來一個人ノ保險者少カラサリシカ近來世界各國ノ法律ニ於テ一個人ノ保險者ヲ認許セス之ヲ會社又ハ組合ニ定限セリ且又昔時ト雖モ一個人ノ保險者ハ海上保險ヲ除クノ外其例ヲ見サルカ如シ是等ノ現象ハ畢竟保險制度ノ本質ニ基キタル結果ニシテ保險者ト云ヘハ必ス多數ノ被保險者ニ對シテ同時ニ契約ヲ締結シ廣ク且大ナル責任ヲ有スルモノナルカ故ニ社會ノ安寧ヨリ論スルモ鞏固ナル財力ヲ有シテ充分ニ且長ヘニ其責任ヲ果シ得ル

モノナラサルヘカラス而シテ此必要ニ應スルニハ一個人ヲ以テスヘカラスル  
カ故ニ會社若クハ組合ニ限ルトシ尙ホ進ミテ會社モ株式會社ニ非サレハ不可  
ナリトノ立法例ヲ作爲スルニ至レリ是等ニ就テハ後章保險會社法ヲ説クニ當  
リテ詳論スルヲ見ヨ

## 第二款 被保險者

被保險者ハ被保險利益ノ所有者ニシテ所謂損害ヲ被ルコトアルヘキ者ナルカ  
故ニ保險者ニ對シテ契約ノ當事者タルヲ普通ノ原則トス例ヘハ自己ノ船舶又  
ハ家屋ニ付テ海上又ハ火災ノ保險契約ヲ締結シ即チ保險料支拂ノ義務ヲ負ヒ  
其代リニ損害ノ填補ヲ受タルノ權利ヲ有スル者ハ即チ被保險者ナリ  
是レ最モ普通ノ場合ナレトモ時トシテ被保險者ノ權利義務カ便宜上他ノ名稱  
ヲ有スル者ニ分付セラル、場合ヲ妨ケス即チ被保險者ニ代リテ保險料支拂ノ  
義務ヲ負フ者發生シテ之ヲ保險契約者ト云ヒ被保險者ニ代リテ保險金ヲ受取  
ル者發生シテ之ヲ保險金受取人ト稱スルニ至リ而シテ被保險者以外ニ保險料  
ヲ支拂フ者即チ保險契約者アル場合ニハ之ヲ保險契約ノ當事者トスルニ至

商行爲ハ常ニ營利ヲ目的トスルモノナリ而シテ商事ニ於テハ金錢ノ利用頻繁  
ナルヲ以テ商法ニ於ケル法定利率ハ民法ニ於ケル法定利率ニ比シ高利ナラシ  
ムルノ必要アリ是レ商法第二百七十六條ニ於テ法定利率ヲ六分トシ民法上ノ  
法定利率ニ比シ一分ヲ高メタリ

新商法ハ法定ノ利率ノ外向ホ法定利息ヲ請求スルコトヲ得ヘキ場合ニ關シ民  
法ノ例外ヲ設ケ商法第二百七十五條ニ於テ之ヲ規定セリ法定利息ヲ請求スル  
コトヲ得ル場合ハ民法ノ一般規定ニ依ルモノ、外左ノ二ノ場合トス

第一 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキ

第二 營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキ  
金錢ノ消費貸借ヲ爲シタル場合ニ於テ民法ノ規定ニ依レハ別段ノ意思表示ナ  
キ限りハ無利息ナルヲ原則トス然レトモ商人間ノ關係ニ於テ特約ナシト雖モ  
借主ヲシテ利息ヲ支拂ハシムハ當事者ノ意思ニ適合スルヲ以テ商法第二百七  
十五條第一項ニ於テ貸主ノ請求權ヲ認メタリ  
民法ノ規定ニ依レハ商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲

シタル場合ニ於テ立替ノ日ヨリ直チニ法定利息ヲ請求スルコトヲ得ス其法定利息ヲ請求スルヲ得ルニハ先ツ債務者ニ對シテ催告ヲ爲ササルヘカラス是レ民法第四百十九條ノ規定スル所ナリ然レトモ商業上ノ關係ニ於テハ金錢ノ利用頻繁ニシテ金錢アレハ之ニ利息ノ伴フハ普通ノ狀況ナルヲ以テ商人カ立替ヲ爲シタルトキハ之ニ因リ不當ニ他人ヲ利益セシムヘキ理由ナキヲ以テ商人ニ對シ立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得セシメタリ商法第二七五條第二項

## 第十節 質權

質權トハ債務權ノ擔保ノ爲メニ存在スル物權ノ一種ニシテ債權者ハ一定ノ目的物ヲ占有シ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルノ權利アリ質權者ハ常ニ質物ヲ占有セサルヘカラス占有ナル要素ハ質權ニ缺クヘカラスアルモノナリ而シテ質權者ハ其質物ニ付キ他ノ債權者ニ先チ支拂ヲ受クル權利アリト云フト雖モ此權利ハ常ニ行使スルコトヲ得スシテ單ニ債務ノ辨濟期ニ於テ主タル債務ノ履行ヲ受ケサル場合ニ於テ始メテ之ヲ行使スルコトヲ得ヘシ質權ノ定義性質

効力等ニ關シテハ之ヲ民法ノ說明ニ譲リ茲ニハ唯其効力ニ關シテ一言セントス  
質權ノ設定ニ因リテ質權者ノ取得スヘキ主タル權利ハ

一 占有權 占有權ノ何タルヤハ民法第八十條ノ規定スル所ナリ民法第三百四十二條ノ規定ニ依レハ原則トシテ占有ハ質權ノ成立ニ缺クヘカラス

アルモノナリ隨テ質權ノ成立ト共ニ其目的物ノ占有ハ必ス質權者ノ掌中ニ屬スルモノト謂ハサルヘカラス隨テ其占有ヲ侵害シタル者アルト

キハ質權者ハ自己ノ名義ヲ以テ占有回收訴訟權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ

使用權 原則トシテハ質權者ハ其質物ノ上ニ使用權ヲ有スルコトナシ

換言スレハ使用權ハ通常質權ノ効果ト稱スルコトヲ得ス然レトモ民法

第三百五十六條ノ規定ヲ觀ルニ不動產質ニ付テハ質權者ハ其質物ヲ使用シ收益スルノ權利ヲ有スルモノ、如シ一方ニ於テ不動產質權者ニ使

用權ヲ與フルト同時ニ他方ニ於テ質權者ヲシテ其債權ノ利息ヲ請求スルコトヲ得サラシムルハ沿革のモノニシテ今日歐洲諸國ニ於テモ亦此ノ如キ制度ヲ採用セルモノ多シ要之民法第三百五十六條ニ掲クル不動

產質ノ場合ニ於テハ反對ノ契約ナキ限りハ使用權ハ質權ニ伴フモノタ

## 三

留置權 質權者ハ債務ノ辨濟ヲ受ルマテハ其質物ヲ留置スルノ權利ヲ有ス是レ民法第三百四十七條ノ規定スル所ナリ

## 四

競賣ノ方法ニ依ル賣却權 賣却權ハ質權ノ効果中最モ主ナル効果ニシテ質權ニシテ賣却權ナクシハ殆ト其用ナシト謂フモ可ナリ抑モ質權ハ占有ノ有無ニ依リテ之ヲ抵當權ト區別スルコトヲ得ヘク賣却權ノ有無ニ依リテ之ヲ留置權ト區別スルコトヲ得ヘシ

賣却權トハ主タル債權カ辨償ノ時期ニ達シタルニ拘ハラス債務者カ其辨濟ヲ怠リタル場合ニ於テ債權者ハ其質物ヲ賣却シ其代金ヨリシテ辨濟ヲ受クルノ權利ナリ抑モ質物ヲ賣却スル權利ヲ以テ所有者ニ非サル質權者ノ權利ト爲セルハ立法上如何ナル理由ニ基クモノナルカ此點ニ就キ古來學者間ニ於テ其見解ヲ異ニセリト雖モ今日ニ於テハ質權ノ性質ニ基クモノナリトノ說最モ行ハルハニ至レリ質權ニシテ賣却權ナク



明治三十二年九月廿四日印刷  
明治三十二年九月廿五日發行

編輯者兼  
東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地  
小田幹治郎

印刷者  
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地  
金子鐵五郎

印刷所  
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地  
金子活版所

發行所  
司法省  
指定  
**和佛法律學校**

所在  
(東京市麴町區富士見  
町六丁目十六番地)

電話(番町百七十四番)

明治廿二年十一月九日內務省許可